

総合政策学部・神戸三田キャンパス 開設20周年記念 Research Fair 2015要旨集



「知の祝祭」リサーチ・フェア2015に寄せて

リサーチ・フェア2015へようこそ

今年で18回目となる「リサーチ・フェア」は、学生が互いに日ごろの研究成果を発表し、研究を通じて相互に交流し合う「お祭り」です。総合政策学部は、ここに来られたすべての方々を歓迎します。

総合政策学部で「リサーチ・フェア」が始まった頃、大学での学生の研究発表は少人数の演習（ゼミ）の時間に行うのが主流でした。学部全体で研究発表・交流を行う「リサーチ・フェア」は、その当時、珍しい試みとして注目を集めました。あれから18年、今では「リサーチ・フェア」のような規模の大きい研究発表・交流の試みはいたるところで行われています。このことは、日本の学校での学びのスタイルが、近年大きく変化しつつあることの現れだと思います。

自分たちの行った研究の成果を、大勢の人々の前で発表するのには勇気が要ります。見知らぬ人からの質問や先生からの批判に応答するのは簡単なことではありません。しかし、他者の視線に曝されることによって、今まで気づかなかった問題や論点が始めて見えてくることがあります。第三者の目を通して、みなさんの研究が深まっていくのです。

この「リサーチ・フェア」が活発な知的交流の場となることを期待しています。

総合政策学部長 細見和志

開催：11月20日（金）、21日（土）



主催：関西学院大学総合政策学部
実施：リサーチ・フェア実行委員会

— 目次 —

1	リサーチ・フェアの紹介	1
2	プログラム	2
3	会場図	4
4	1日目要旨	5
	◆EC Presentation	5
	◆口頭発表	6
	◆ポスター発表	16
	◆自由形式	20
5	2日目要旨	22
	◆口頭発表	22
	◆総合政策学部同窓会企画アポなしOBOG訪問	27
6	授賞式・懇親会	35



(写真は過年度)

リサーチ・フェアの紹介

リサーチ・フェアは、総合政策学部から初めての卒業生を送り出そうという1998年秋に、「卒業生の研究発表の場を設けたい」という故安保則夫先生からの提案で始まりました。なお、安保先生は創設時からこの学部の運営の中心で、初代の学部長の天野明弘先生を支えられた後、第2代学部長を務められましたが、学部長ご退任直後に急逝されました。

安保先生は最初、「ゼミ単位の発表を」とお考えでした。しかし、他の先生方から「うちのゼミではみんな違うことをしている」「どうせやるなら、個人で発表を」という意見が強く、「理系では当たり前のポスター発表や自由形式も採用すればなんとかなる」ととりあえず始まりました。それから、様々な試みを経て、今年で18回を数えます。

その経緯を踏まえて、学生の皆さんにお伝えしたいのは以下の2点です。まず、リサーチ・フェアは教職員と学生のコラボレーションで始まりました。とくに、このイベントを始めた1期生の方々、彼ら／彼女らは“総合政策”というまったく新しい学部を手作りで作り上げていった人たちでしたが、リサーチ・フェアもまたその一つでした。しかし、そろそろ20回にも近づいた昨今、今や、リサーチ・フェアも「当たり前」の世界になってしまい、学生の皆さんからさらなるイノベーションを図ろうとする意欲がやや薄れてきた雰囲気を感じないわけではありません。そのあたり、皆さんの自発的な活動を強く望む次第です。関心がある方は、是非、リサーチ・フェア実行委員会に学生委員としてご参加いただければと思います。

もう一つは、このリサーチ・フェアが様々なネットワークの一つの要(かなめ)になっていることです。例えば、1～2年生は上級生の発表を参考に学科、ゼミを選択する。3～4年生はリサーチとプレゼンテーションの方法を実践して、卒業論文や卒業後の仕事に活かす。さらに卒業生の方々はこの1年のこの日、キャンパスに戻って後輩(＝皆さん)に自らの仕事を語り、皆さんは先輩の話から自らの進むべき道を選んでいく。ここ数年、高校からの発表者や見学者も増えました。そこに高校、大学、そして社会のつながりを見出す。それが大学が持つ本来の使命の一つ、リベラル・アーツ(教養)の一つの姿だと思います。

さらに付け加えれば、学生の皆さんに今、本当に望みたいのは“聴く”ことかもしれません。リサーチ・フェアでもプレゼンテーションが中心となり、いきおい、みんな自分の表現に集中する。しかし、(卒業後の社会がまさにそうですが)、みんな一年中“プレゼン”しているわけではありません。

むしろ、相手の話を“聴く”、しかも相手の“真意”を感じ取る、そして議論を重ねて、それまで相手も自分も気づかなかった“新しい世界”に気づく。これがソクラテス以来の対話型ディスカッションの本質です。そして、それができる方こそ、「自分が生きている時代を生き抜く力」を身につけていると言えるでしょう。

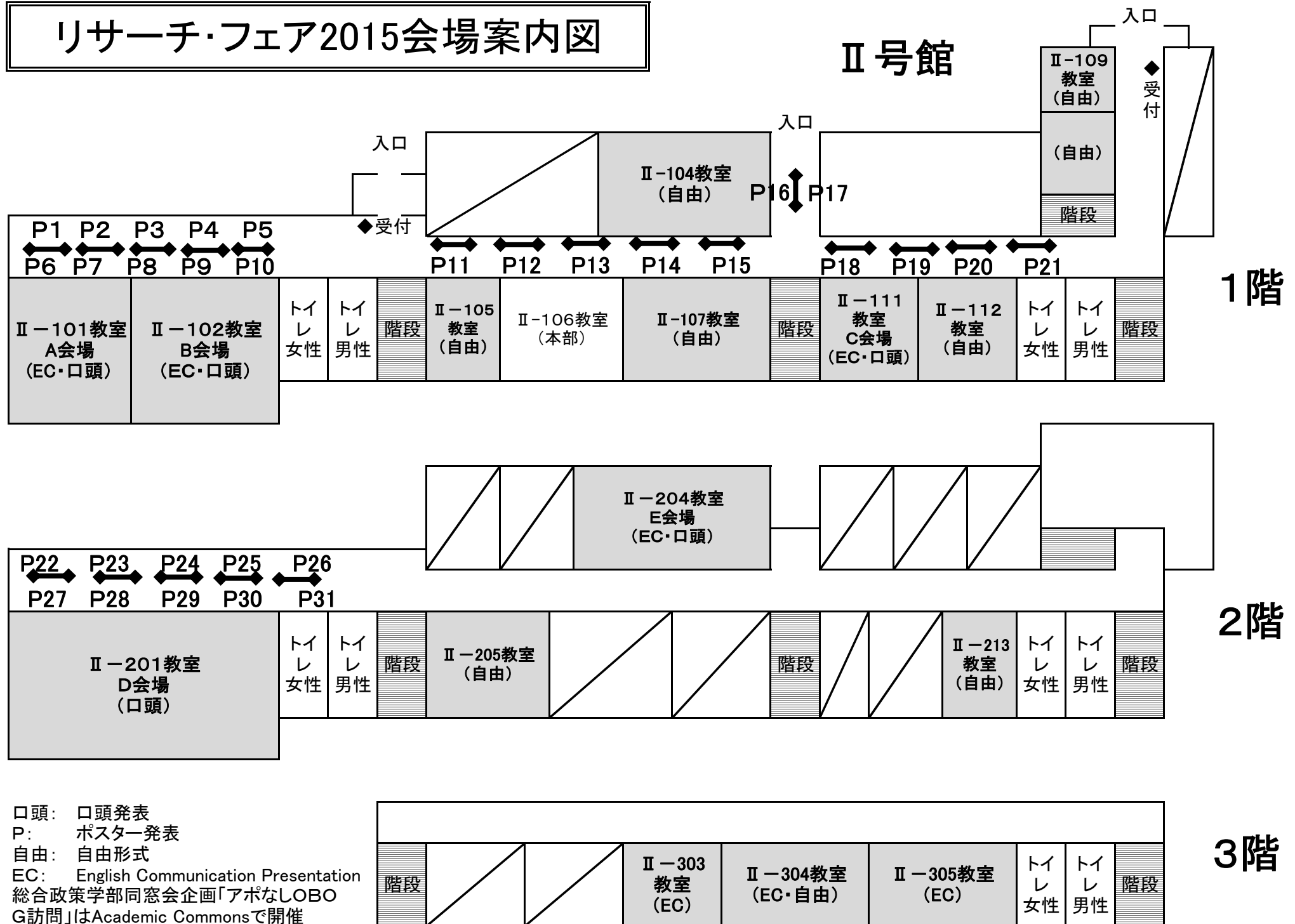
そう考えると、リサーチ・フェアこそまさに絶好の機会です。ほかの学生・院生・教員が何を考え、何を伝えたいのか、そしてそれに自分はどのように応えるのか？ さらに議論の中から互いに思っても見なかった答えを探し出せるか？ という意味で、学問の新たな地平＝真のワンダーランドによろこそ！

第1日（金曜日）	時間	EC Presentation																																																																																										
		Ⅱ-101			Ⅱ-102			Ⅱ-111			Ⅱ-303			Ⅱ-304			Ⅱ-305																																																																											
		English Education Erika Nakagawa et al.			Animal Extinction Rika Okada et al.			Climate Change Nao Tanaka et al.			English Education Takahiro Ogino et al.			Gender Inequality Myuka Fukui et al.			Homelessness Uran Yoshida et al.																																																																											
					Obesity Fumika Suzuki et al.			Homelessness Mariko Takagi et al.			Homelessness Chiaki Nagahashi e al.			English Education Rika Ohno et al.			English Education Moeko Miyagawa																																																																											
		Climate Change Shoma Tani et al.			Gender Inequality Ayu Tatsukawa et al.			Destruction of the Oceans Hideaki Mukai et al.			Obesity Ayaka Kitano et al.			Homelessness Sakiko Oda et al.			Gender Inequality Mao Maeda et al.																																																																											
	10:30	口頭発表										自由形式																																																																																
		A会場（Ⅱ-101）			B会場（Ⅱ-102）			C会場（Ⅱ-111）			D会場（Ⅱ-201）			E会場（Ⅱ-204）			Ⅱ-104	Ⅱ-105	Ⅱ-107	Ⅱ-109	Ⅱ-112	Ⅱ-205	Ⅱ-213	Ⅱ-304	廊下																																																																			
		11:00			「楽」にできる農業で年収が公務員以上！？ 布施柚菜（京都学園高校1年）他			B101 ゼミ室を用いた空間の検証 片山珠亜（総政3年；清水ゼミ）他			C101 進む晩婚化 清原礼美（総政3年）他			D101 エンターテインメントで貧困解決 上垣内知洋（総政2年；GSR研究会）他			E101 小学校教育改革 中谷悠人（総政3年；細見ゼミ）他				10:00 ～ 16:00		11:00 ～ 16:00		10:00 ～ 16:00	11:30 ～ 12:00	11:00 ～ 18:00																																																																	
		11:30			A102 三重県亀山市における観光戦略提案 小林亮輔（総政4年；伊佐田ゼミ）			B102 災害に強いまちづくり 仁木彩乃（総政3年）他			C102 IF JAPAN TAKES THE SOCIAL SYSTEMS OF EUROPE FOR WOMEN TO PARTICIPATE IN THE SOCIETY, 西岡花蓮（総政3年；Sawyerゼミ）他			D102 カンボジアの貧困から考える日本人の食への無関心 半田翔也（関学高等部2年）他			E102 子育てが与える人格形成への影響 三宅幸（総政3年；村瀬ゼミ）他																																																																											
		12:00			A103 Food problem of Japan 渡部美沙（京都学園高校1年）他			B103 理想的な居住環境とは 山添裕也（総政3年；清水ゼミ）他			C103 虐待の世代間連鎖に関する一研究 加藤千明（総政3年；李ゼミ）他			D103 国際協力をより身近なものに 神谷直人（総政3年；園田ゼミ）他			E103 学生にとっての理想の大学とは？ 清水万裕（総政3年；細見ゼミ）他			12:00 ～ 13:00	「ソーシャルビジネス×国際協力」の可能性；参加型だからこそできる貧困解決のカタチ； 川辺紘範（総政3年・西野ゼミ）他	12:00 ～ 16:00	ドイツのお部屋★グーテン・文化； 林由貴子（総政研究員・鎌田研究室）他	めざせ！ノートテイクマスター！ 石川智己（理工3年）他	13:00 ～ 16:00	いのちを育む「水の旅」；環境教育・集客イベントの報告； 伊勢美咲（総政4年）他	12:00 ～ 16:00	私達が考える国際協力の形； 山田愛（総政3年・小西ゼミ）他	Reconsidering Japan's job-hunting system in comparative perspective 伊藤悠太（総政3年；Sawyerゼミ）他																																																															
		12:30			A104 地産地消 神田真央（京都学園高校1年）他			B104 外国人観光客への適切な防災情報の提供に関する提言 岡部あずみ（総政4年；伊佐田ゼミ）			C104 東日本大震災による日本産業技術構造の変化 邑田圭佑（総政4年；中野ゼミ）他			D104 カンボジアの子供達が受けている問題とは 松浦裕樹（関学高等部2年）他			E104 学生支援の適正化について 片山翔太（総政4年；伊佐田ゼミ）																																																																											
		13:00			院1 自然災害と復興予算・復興政策の関係について 北岡佑太（総政M1）			B105 日本経済を潤す新たなお土産品 石川壘衣（総政4年；中野ゼミ）他			C105 我が国における財政再建の実証研究 上之郷谷菜月（総政3年；亀田ゼミ）他			D105 アジアの「わ」の作り方 齋藤綾乃（総政3年；坂口ゼミ）他			E105 アンケート調査・インタビュー調査における信憑性の比較 大庭七海（総政4年；Heffernanゼミ）他			Immigration in Japan Haruka Nakajima（総政3年・Sawyerゼミ）他	13:00 ～ 16:00	阿蘇の草原；まもり・つなぐ緑の大地； 河田都（総政4年）他																																																																						
		13:30			院2 ドイツのエアランゲン市における太陽光発電の設置動向とその影響要因に関する研究 辻田百合菜（総政M1）			B106 兵庫県内の大学生の地元就職志向について 加古ななみ（総政4年；伊佐田ゼミ）			C106 日本人が選好する最適税率とは？ 平山真理（総政3年；亀田ゼミ）他			D106 健康な世界をつくる 張しんめい（京都学園高校1年）他			E106 Same-sex marriage in Japan and the USA 浜田英梨子（総政3年；Sawyerゼミ）他																																																																											
		14:00																		ポスター発表ディスカッションタイム（タイトル・発表代表者は次ページに掲載） 14:00～15:00（神戸三田キャンパスⅡ号館廊下）																																																																								
		15:00																		A107 月額300円の定額制配信は音楽文化を発展させるのか 羽岡里沙（総政3年；眞壽田ゼミ）他															B107 どのような支援政策が開発途上国カンボジアの経済発展に有効か？ 奥平裕士（関学高等部2年）他															C107 連帯感意識による政治参加意識の向上 山崎麻衣（総政3年；長峯ゼミ）他															D107 東アジアにおける自由貿易協定締結の経済への影響 田沼孝太（総政3年；亀田ゼミ）他															院3 ミースファンデルローエの空間構成に関する研究 梅田朋佳（総政M1）												
15:30																		A108 清涼飲料水に対する消費者の選好に関する調査 田邑浩平（総政3年；宮川ゼミ）他															B108 The mutually beneficial volunteerism in Cambodian education 滝澤明穂（総政3年）															C108 黄色い傘に降る赤い雨 木村美玖（総政3年；井上ゼミ）他															D108 委員会設置会社でいいんかい！！ 倉希良々（総政3年；古川ゼミ）他															院4 小林一三と宝塚市開発 辻本和也（総政M1）														
16:00																		A109 知的財産における商品・マークの権利 藤原良介（総政3年；眞壽田ゼミ）他															B109 災害時における社会的弱者の救済 吉川敦也（関学高等部3年）他															C109 若者の投票率を上げるには 三木万裕佳（総政3年；長峯ゼミ）他															D109 派遣労働は悪か？！ 岡優希（総政3年；坂口ゼミ）他															院5 新聞記事データベースにおける『発達障害』と『自閉症』 宮崎康支（総政D2）														
16:30																		A110 訪日観光客のリピーター増加と安定 井上恵理子（総政4年；中野ゼミ）他															B110 新しい日本の都市のカタチ「コンパクトシティ」 露口寛子（総政3年；北原ゼミ）他															C110 義務投票制度が政治に与える影響とは 細井美里（総政3年；大村ゼミ）他															D110 在日のためのワーホリ情報発信研究 李沙耶（総政3年）															院6 中国における温暖化政策 王文凱（総政M1）														
17:00																		A111 国民にとって電力自由化は必要か？ 船橋稔博（総政3年；朴ゼミ）他															B111 もしも〇〇が世界遺産になったら 武田奈桜（総政3年；宮川ゼミ）他															C111 日本の若者の投票率を学校教育によって改善する 日高祐太郎（総政3年；長峯ゼミ）他															D111 播州織の再興について 岡本拓也（総政3年）															院7 伝統文化である丹波立杭焼が丹波エリアの地域活性化に果たす役割とは？ 小林真洋（総政M1）														
17:30																		A112 商標とは？ 山口亮太（総政3年；眞壽田ゼミ）他															C112 人はいつから大人になるの？ 竜門和諒（総政4年；鎌田ゼミ）他															D112 Appleの製品戦略 恒川貴紀（総政3年；古川ゼミ）他															院8 豊かな食環境で健康寿命は延びるのか？ 佐伯民江（総政M1）																													

時間	ポスター発表(ディスカッションタイムは第1日[金]の14:00～15:00)								
	No.	発表者	タイトル	No.	発表者	タイトル	No.	発表者	タイトル
14:00～15:00 第1日(金曜日) ディスカッションタイム	P1	安藤真子(総政3年)他	日本における愛国心と政治	P12	千葉真子(総政3年)他	北陸新幹線開業に対する金沢市民の意識調査	P23	下田奈菜(総政3年;宮川ゼミ)他	県民性の違いに注目してごみ減量政策を考える
	P2	細井美里(総政3年;大村ゼミ)	欧州と日本の少子化対策	P13	長澤麻弥(総政3年;山根ゼミ)他	Malacca ～～	P24	江洲真希子(総政4年;伊佐田ゼミ)	大学生がカーシェアリングを利用しない理由とその打開策
	P3	加藤実彩(総政3年;安ゼミ)他	カネテツの新市場開拓戦略	P14	本郷紫之(総政3年;安高ゼミ)他	地域に輝きを!	P25	今井田千佳(総政M2)	地方自治体における生物多様性地域戦略策定の傾向と特徴の分析
	P4	上間友希菜(総政4年;李ゼミ)	知的障害者の犯罪と生活拠点との関連性	P15	前川裕量(総政M2)	中山間地域における地域再生政策	P26	松田真美(総政3年;今井ゼミ)他	窓ガラスへのバードストライクから見た街作り
	P5	木内友梨(総政3年;李ゼミ)他	児童虐待は親から子へ伝染するのか?	P16	若林寧々(総政3年;山根ゼミ)他	学校におけるバリアの現状	P27	池内麻衣(総政3年)他	どうする? 観光地の環境美化に関わる問題
	P6	李善仁(総政M2)	外国人労働者の職務満足度に関する研究	P17	大石綾(総政3年;客野ゼミ)他	水と暮らす	P28	藤原建太(総政3年;今井ゼミ)他	ウミガメの涙
	P7	笠原佑麻(総政3年;安高ゼミ)他	大学生の結婚に対する意識と理想の婚活	P18	中安楓(総政3年;山根ゼミ)他	デリーの中世イスラム遺跡をめぐる保存と都市計画	P29	有本早希(総政3年;今井ゼミ)他	日本の廃棄物問題
	P8	京井輝生(総政3年;清水ゼミ)他	ラブリーな町ライブラリー	P19	武末佐恵加(総政M2)	マレーシアにおける港市の都市構成に関する研究	P30	小西璃奈(総政3年;大村ゼミ)	家族間交流が主観的幸福度へ与える影響
	P9	金澤早紀子(総政3年;斉藤ゼミ)他	市民参加型まちづくりにおける若者の参画	P20	平井智也(総政4年;角野ゼミ)	高齢化する郊外住宅地の再生	P31	石川千夏(総政4年)	食品パッケージにみる青色の考察
	P10	笹倉麻衣(総政M2)	分譲マンションの共用施設におけるコミュニティ活動について	P21	妹尾圭悟(総政M1)	木造応急仮設住宅の展開に関する考察			
	P11	柴田実歩(総政3年;北原ゼミ)他	京町家の減少!?	P22	林田佳澄(総政3年;山根ゼミ)他	ユキノナイカマクラに明かりを灯そう			

	時間	口頭発表					自由形式	
		A会場(Ⅱ-101)	B会場(Ⅱ-102)	C会場(Ⅱ-111)	D会場(Ⅱ-201)	E会場(Ⅱ-204)	Ⅱ-107	廊下
第2日(土曜日)	9:00	A201 離島の経済振興を考える 阪上裕康(法3年)他	B201 空き地活用 小西颯一(兵庫高校1年)他	C201 言葉の壁≠生存の壁 村田薫音(御影高校2年)他	D201 私たちの家族と戦後史観論争 浅井良紀(総政3年;柴山ゼミ)他	院9 ポイント制の導入による教育システムのビジネスモデルの構築 王碩(総政M2)		9:00～15:00 柏原スタジオ改修案Pコンペ
	9:30	A202 看護の仕事を考える 川上聖加(矢掛高校2年)他	B202 まちの「味わい」分析 村上峻(総政3年;客野ゼミ)他	C202 自尊感情の向上を目指す理想の教育 原子真祐(法4年)他	D202 NEW EDUCATION FOR JAPAN 丸田葵(葺合高校1年)他	院10 事務処理組織におけるインフォーマル・グループのはたらき 三谷泉(総政D1)		
	10:00	A203 介護労働力不足は解決できるのか 金山考則(総政3年;四方ゼミ)他	B203 銭湯で外国人と交流をしよう 白松優希(兵庫高校1年)他	C203 トライやる・ウィーク＝職業体験? 坂口杏奈(御影高校2年)他	D203 どうなる?今後の世界 藪野香織(総政3年;小池ゼミ)他	院11 中国保定市における環境配慮型都市建設 葛亮亮(総政M1)		
	10:30	A204 雑草を活かす 藤澤友希(岡山龍谷高校2年)他	B204 社会の大衆化と大学生のアイデンティティの喪失 山内里奈(総政1年)他	C204 なぜ高校中退率は低下したのか 吉田裕佳(総政3年;四方ゼミ)他	D204 アメリカ合衆国大統領選挙勝利の条件 バナジー・ジョティ・千歳・サラフィーナ(総政3年;小池ゼミ)他	E204 ニューラルネットワークを用いた企業倒産の予測可能性に関する考察 水谷香奈子(総政3年;古川ゼミ)他		
	11:00	A205 バラスト水による環境問題はどうか解決できるのか 中谷亮介(総政3年;朴ゼミ)他	B205 大学生の食生活の乱れ 和田麻里(総政4年)	C205 防災グッズ 荒木ひなの(岡山龍谷高校2年)他	D205 宇宙開発の危険性 矢野亨枝(総政1年)他	E205 日本と台湾のファッション比較 林裕也(総政3年;伊佐田ゼミ)他		
	11:30	A206 Let's clean!! ごみZERO政策 小瀧志織(葺合高校1年)他	B206 大学生におけるスマートフォン依存と心理ストレスとの関係 山川華穂(総政4年;伊佐田ゼミ)			E206 故郷「村雲」のまちづくり・地域活性化 友近七海(北摂三田高校2年)他		
	12:00	休憩・昼食					12:00～15:00	録(総政研究室)他・環境・ドイツ★グーテン・ターク!・ヒト・文化・環
	13:00	総合政策学部同窓会企画「アポなしOBOG訪問」 (Academic Commons) 詳しい内容は27～34ページを御覧下さい						
	16:00	表彰式・懇親会(第3厚生棟を予定)						

リサーチ・フェア2015会場案内図



Research Fair 第1日 (11月20日 [金])

Research Fair EC Presentation Schedule 2015

(9:00~10:30)

■学外から来られた高校生の皆様へ

発表中の教室への入室は厳禁です (9:00、9:30、10:00の入れ替え時のみ入出可)。

教室のスペースで、学外からの高校生の方等の入室受入数に制限があります (下記注意)。

とくにII-111、II-303は教室が狭いため、入室できません。

教室	9:00~9:30	9:30~10:00	10:00~10:30	学外者受入数
II-101	English Education <i>Erika Nakagawa</i> <i>Kaede Kimura</i> <i>Haruna Otani</i> <i>Natsuho Okumura</i>		Climate Change <i>Shoma Tani</i> <i>Seiji Hirota</i> <i>Michiro Yamasaki</i> <i>Daisuke Fukuda</i>	高校生の 方等は60名 まで受け入 れ可能で す。
II-102	Animal Extinction <i>Rika Okada</i> <i>Minami Sugimoto</i> <i>Chika Takahashi</i> <i>Yui Enomoto</i>	Obesity <i>Fumika Suzuki</i> <i>Natsuko Maruoka</i> <i>Nanami Akiyama</i> <i>Anna Yamanishi</i>	Gender Inequality <i>Ayu Tatsukawa</i> <i>Minako Hashimoto</i> <i>Miho Yonebayashi</i>	高校生の 方等は80名 まで受け入 れ可能で す。
II-111	Climate Change <i>Nao Tanaka</i> <i>Maki Hashimoto</i> <i>Ayaka Ohno</i> <i>Hiroko Furutani</i>	Homelessness <i>Mariko Takagi</i> <i>Misako Yagi</i> <i>Ayaka Kawasaki</i> <i>Natsumi Ohashi</i>	Destruction of the Oceans <i>Hideaki Mukai</i> <i>Yuki Ueda</i> <i>Shota Yamada</i> <i>Hiroki Miyoshi</i>	教室が狭 いため、申し 訳ありません が、高校 生の方等は ご遠慮下 さい。
II-303	English Education <i>Takahiro Ogino</i> <i>Masahiro Oyagi</i> <i>Nao Maeyama</i> <i>Akiyoshi Omika</i>	Homelessness <i>Chiaki Nagahashi</i> <i>Kaho Matsuda</i> <i>Syusuke Kimoto</i> <i>Yushi Yamashita</i>	Obesity <i>Ayaka Kitano</i> <i>Kosuke Sugimoto</i> <i>Akiko Ooka</i> <i>Yuki Tanaka</i>	教室が狭 いため、申し 訳ありません が、高校 生の方等は ご遠慮下 さい。
II-304	Gender Inequality <i>Myuka Fukui</i> <i>Sayaka Asai</i> <i>Saki Fukuhara</i> <i>Ayaka Yamamoto</i>	English Education <i>Rika Ohno</i> <i>Yuki Osugi</i> <i>Ayae Hanai</i> <i>Yu Honda</i>	Homelessness <i>Sakiko Oda</i> <i>Chisato Maruo</i> <i>Ayana Abe</i> <i>Reina Abe</i>	教室が狭 いため、高 校生の方等 は20名が限 度です。
II-305	Homelessness <i>Uran Yoshida</i> <i>Mayu Maruyama</i> <i>Asaka Higami</i> <i>Mizuki Okazawa</i>	English Education <i>Moeko Miyagawa</i> <i>Manami Dotsu</i> <i>Noriko Sumita</i> <i>Etsuko Shimoda</i>	Gender Inequality <i>Mao Maeda</i> <i>Megumi Furukawa</i> <i>Otone Tatsumi</i> <i>Moe Koga</i>	教室が狭 いため、高 校生の方等 は20名が限 度です。

第1日(11月20日)口頭発表A会場(Ⅱ号館101教室)

11:00	「楽」にできる農業で年収が公務員以上！? <i>布施柚菜(京都学園高校1年)・春山禮成・高松もも・澤田美呂</i> 日本の農業人口は、1960年の約1451万人から2009年では289万人と、1100万人以上減少している。日本の農業人口は減少し、海外の輸入に頼る形になってもいいのだろうか。そしてこの減少の原因を考えたところ、重労働、農地面積が少ない、年収が少ないの3つがあがった。〈手をかけずに、高品質なものを作る〉をビジョンとし、この3つの原因を全て解決できる「台形最新型らくらく農業」を提案し、日本の農業に革命を起こそうと考える。
11:30	三重県亀山市における観光戦略提案～伊勢志摩サミットへ向けて～ <i>小林 亮輔(総政4年;伊佐田ゼミ)</i> 三重県亀山市のB級グルメ「亀山みそ焼きうどん」、「亀山ラーメン」といったB級グルメを観光の軸にした上で、観光戦略を検討した。他のB級グルメとの戦略の差や失敗例を調査し、実際に市役所、商工会議所へのインタビュー調査実施し現在の問題点を洗い出した。日本特有の問題や亀山市の問題が判明した。亀山市を観光により活性化させるために、純粋に観光客の数を増やす戦略も検討する必要があるが、一人当たりのお金の使用額を増加させるための戦略を検討する必要があると考えた。その上で、亀山市への観光戦略の提案を行う。
12:00	Food problem of Japan～あたりまえをあたりまえじゃない世界に～ <i>渡部美沙(京都学園高校1年)・早川こゆき・酒谷奈央・中嶋風音</i> おにぎり730個。これは一年間で各家庭において廃棄される食糧の総量を、おにぎりに換算した時の数です。日本における食糧廃棄は、全世界の食糧廃棄量の3分の1を占めていると言われています。日本が一年間で消費する食糧は約8500万tなのに対し、廃棄量は約1800万t。そのうち食べられるのに捨てられている食べ物の量は500万tにもなります。世界には飢餓に苦しむ人々が10億人もいるなかで、この食品ロスは許しがたい事実です。このロスを減少させる方法を私たちが導いていきます。
12:30	地産地消～廃棄物と知識の再利用～ <i>神田真央(京都学園高校1年)、貝谷若菜、加藤万温、稲田竣介、生田暁泰、宮本徹也</i> 現在、日本の食料自給率は約39%と危機的状況にある。しかし日本の食品廃棄の総量は約1800万tあり、800万tが食品ロスによる廃棄である。食品ロスがある原因としていくつか考えられるが、私達が解決策を提案することのできる原因として、農業に対する知識・関心の希薄化をあげる。そこで、地産地消による解決策を提案する。具体策として地域で廃棄された食料を使った惣菜屋「Slocal Food」を展開し、地域の高齢者から食の大切さも学ぶ。さらに、外食での食品ロスを削減する案として、「MOTTAINAI Bag」の全国普及を提案する。
13:00	自然災害と復興予算・復興政策の関係について <i>北岡佑太(総政M1)</i> 東日本大震災が起きてからまもなく5年が経ち、今年度で集中復興期間は終了する。東日本大震災で計上された復興予算は25兆円を超え、これは阪神・淡路大震災の復興予算の2倍以上に上る。果たして、東日本大震災の規模は適切であったのだろうか。これまで自治体レベルで復興予算について検証した研究は多いものの、国レベルで復興予算の策定に至るまでの合意形成を検証した研究は少ないのが現状である。そこで本研究では、自然災害と復興予算に関する情報を収集し、それを比較して分析することを目的とする。今回の発表では東日本大震災以外の震災も含めて、様々な自然災害で組まれた復興予算についての調査発表から今後の展開を示す。
13:30	ドイツのエアランゲン市における太陽光発電の設置動向とその影響要因に関する研究 <i>辻田百合菜(総合政策研究科M1)</i> 本研究の最終的な目標は、太陽光発電装置の導入を都市計画と一体的に進める道筋と方法を示すことである。日本では2012年7月に再生可能エネルギー固定価格買取制度が施行され、特にメガソーラーの設置が急増しているが、それに伴い様々な問題が浮上している。そこで、市街地における太陽光発電装置の設置に関する知見を得るため、日本に先駆けてエネルギー自立都市を目指して取り組んでいるドイツ・バイエルン州エアランゲン市を事例とし、太陽光発電装置の設置登録データを元に、その設置箇所や動向、設置されている建物用途、土地利用に関する調査を行い、統計的に解析し、設置の影響要因等について考察した。

15:00	月額300円の定額制配信は音楽文化を発展させるのか～話題のAWA・LINE MUSIC～ 羽岡里沙(総政3年; 眞壽田ゼミ)・千秋七海・井上裕也・奥野寛彰・中村康成 インターネットの成長により、音楽利用はレコード・CDから着うた・着うたフル・YouTube等の動画配信、iTunesの音楽配信と多種多様に変わってきました。今回のリサーチフェアでは、日本で話題となっているAWA・LINE MUSIC・Apple Music等の定額制配信において、著作権との関わりと日本での伸展の可能性について発表いたします。私たちが聴いている音楽は、私たちの心を豊かにし、生活に潤いを与えてくれます。利用の仕方がCDでも配信であっても、音楽は著作者が思想や感情を精魂こめて創作した著作物です。そのことを再認識し、定額制配信が自分にとって最適であるかどうかを判断していただく機会にしていいただければと考えます。
15:30	清涼飲料水に対する消費者の選好に関する調査 田邑浩平(総政3年; 宮川ゼミ)・幸林みづき・川上千晶・植田麻祐子 現在、私たちの生活には物資が溢れており、お金があれば欲しいものにいつでも手が届く大量生産・大量消費の社会が展開されている。例えば、清涼飲料水については、その存在は私たちの生活には欠かせないものであり、その種類も多い。では、人々はどのように多数の清涼飲料水の中から、特定の商品を選択しているのだろうか。本研究では、アンケート調査を実施し、清涼飲料水に対する人々の選好を明らかにするとともに、人々のメディアとの接触頻度等に注目して、その関連要因についても検証する。
16:00	知的財産における商品・マークの権利～ニセモノ・類似品に気をつけろ～ 藤原良介(総政3年; 眞壽田ゼミ)・獅々原莉子・小坂優子・成松貢・趙鵬 飛 現在では、多くの似た商品や似たマークが溢れかえっています。それは、日本だけではなく世界中に存在しています。それらのニセモノ商品は、一部の人たちにとっては、安くて手に入れやすいものとなっており、一般の人には全く見分けが付きません。最近では、似たマークとして国際オリンピックエンブレムや鳥二郎など、様々な問題になったものもありません。しかし、それらの商品によって、国や多くの人々が損害を被られています。このような現状を調べ、こういった解決策があるかを発表したいと思います。
16:30	訪日観光客のリピーター増加と安定 井上恵理子(総政4年; 中野ゼミ)・船坂有里 2020年に開催される東京オリンピックをきっかけに、日本政府は2000万人の訪日観光客を目標として掲げている(日経産業新聞 2015/09/15)。長期的な経済効果を求めた時、訪日リピーターの増加と安定が重要となってくる。この発表では、日本が抱えている問題を提示する。そして、日本政府が外国人旅行者の訪日を拡大するために発足した「訪日旅行促進事業(ビジット・ジャパン事業)」を基に、国レベルと国民レベルの二つの視点から見た、訪日リピーターの増加を目的とした政策を提言する。
17:00	国民にとって電力自由化は必要か？ 船橋稔博(総政3年; 朴ゼミ)・四宮淳平・吉崎倫 現在の日本では電力網は、電力会社10社による独占状態にあります。これは電気代という現代の私たちにとって避けては通れない負担に対して、国民の意思が反映されない場合があるということを意味します。そこで、1990年のバブル崩壊をきっかけとして電力自由化が始まり、東日本大震災が引き金となり一般家庭を含む電力自由化が2016年から始まります。電力自由化にはメリット・デメリットがあり、それをきちんと見極めなければなりません。そして、諸外国の失敗を学び、今後活かしていく必要があります。
17:30	商標とは？ 山口亮太(総政3年; 眞壽田ゼミ)・塩澤太希・中川太平・加藤綾・松尾彩華 近頃、東京オリンピックのエンブレムの問題が話題となりましたが、みなさん商標とはどのような物かご存じでしょうか。商標とは登録することにより、他者に権利を乱用されないようにすることです。これを侵害すると、トラブルの原因になり、実際に裁判になってしまうこともあります。そこで、この機会に商標の重要性を伝えたいと考えています。

第1日(11月20日)口頭発表B会場(Ⅱ号館102教室)

11:00	ゼミ室を用いた空間の検証 片山珠亜(総政3年・清水ゼミ)・上瀧晴夏・宇田朱里・佐藤由佳 ゼミ室は私たちにとって身近です。また、ゼミ室は間取り・家具等の共通事項が多いが、それぞれの空間の印象は異なります。そこで、私たちはその要因を知るため、まず、各ゼミ室ごとの印象を把握します。次に、それらを私たちのゼミ室において家具の個数・種類等の条件を統一し、家具を移動させたり、模型を作成したりして、検討・分析しました。そして、空間の特徴とその条件を整理しました。これらの研究から得た結果より、インテリア計画にどのように生かせることができるのか、検証していきたいと思います。
11:30	災害に強いまちづくり 仁木彩乃(総政3年)・佐久間愛・谷原凌至・呂佳鴻・房文雯 マルチハザードの時代といわれる現在、地震や津波など災害は決してイレギュラーなものではなく、日常的に発生しうるものである。災害対策において、建物やインフラといったハード面だけではなく、その地域に住む人々の防災意識や取り組みのようなソフト面が非常に重要となってくる。今回は、中国・四川大地震と日本・東北太平洋沖大地震を用いて、それに対する政府の対応とその評価を考察する。それをふまえて、「災害に強いまちづくり」に必要な要素を述べ、これからわたしたちがつくっていくべき防災都市を提案する。
12:00	理想的な居住環境とは 山添裕也(総政3年・清水ゼミ)・二野雄介・松本紗奈・小河真奈 近年、少子化や独身世帯の増加等の社会情勢によって、20代～30代の若者達のライフスタイルが多様化し、居住環境の変化が見られ、将来の居住のスタイルが明確ではない時代が訪れようとしている。そこで私たちは、若者の目線に立って将来育児と仕事を両立でき、かつ、夫婦円満に生活ができる理想的な居住空間をテーマにして発表する。調査結果や提案を踏まえて、将来の若者世代が住みやすい地域性や居住環境を提案する。
12:30	外国人観光客への適切な防災情報の提供に関する提言 岡部あずみ(総政4年・伊佐田ゼミ) 2020年の東京オリンピックを控え、ますます訪日観光客がふえることが予想される。地震や台風など自然災害が多い日本で安全に外国人が旅行をするには、防災情報の提供が必須であるのではないかと。現在、日本政府観光局(JNTO)は、外国人向けのポータルサイトを運用している。そのサイトをベースとして、日本に訪れる外国人観光客の防災意識や、災害時の情報のニーズをヒアリングしコンテンツの改善案、普及方法を提言していく。
13:00	日本経済を潤す新たなお土産品～非輸出商品の輸出商品化～ 石川墨衣(総政4年・中野ゼミ)・柴田彩栄・日下恵里・濱口奈緒・中尾世梨奈・高木彩寧・伊藤悠太 訪日中国人観光客の増加に伴い、彼らが購入する「お土産」に焦点をあて研究を行う。純粋に国内向け商品として生産供給されている商品、例えば、高唎銘柄米などを、インバウンド観光客がお土産として爆買いすることで、有望な輸出商品となる。この非輸出商品の輸出商品化というプロセスに注目し、2020年の東京オリンピック開催時に大きな経済効果が期待できるような新たなお土産品候補を選定し、産業間分析で計測する。
13:30	兵庫県内の大学生の地元就職志向について 加古ななみ(総政4年・伊佐田ゼミ) 近年、東京一極集中が進む中、若者の地元就職志向が広まっている。若い力は、今後の日本の地方社会を支えていく重要なものだ。しかし、その若者たちが地元就職にするにあたり、様々な障壁が伴う。それにつき、大学生の目線からこの問題について検証し、解決策を考える。

15:00	どのような支援政策が開発途上国カンボジアの経済発展に有効か？ 奥平裕士(関学高等部2年)・山口滉人 私たちは今年1月にカンボジア研修へ訪れた。カンボジアでは、1975年のポルポト政権成立以後約4年間に渡って・農業主体の原始共産制主義思想のもとで通貨制度を廃止、教育を完全に否定、また政権へ反抗する恐れのある医者や弁護士等の知識層や・労働力にならない小さな子供たちなどを無差別に虐殺した。こうした歴史の深い傷跡を背に、カンボジア国内は経済発展へと歩みを進めている現状がある。私たちは日本国民として、今後どのような施策を行っていくことがより着実な経済発展へと繋がるかを考察した。
15:30	The mutually beneficial volunteerism in Cambodian education 滝澤明穂(総政3年) My presentation will focus on the role of Japanese volunteerism in education in Cambodia, based my experiences and what I have learned from talking and reading, in order to understand the situation more deeply. I hope to give the audience a sense of what they can most effectively do to contribute to the development of less developed countries.
16:00	災害時における社会的弱者の救済～高校生からの政策提言～ 吉川敦也(関学高等部3年)・魚谷航平・坂部正洋・佐々木崇人・佐々木将人・土屋優介 ドイツの第六大連邦大統領リヒャルト・フォン・ヴァイツゼッカーは以下の言葉を残した。「過去に目を閉ざすものは結局のところ現在にも盲目となる」。先の大震災を経験した私たちは、それを単なる「過去」に留めてはいけない。そこから学んだことを踏まえ、次の震災に向けて何ができるのかを熟考しなければならない。私たちはこのような問題発見をし、大きく分けて「震災」と「貧困」という二つの観点からリサーチし、問題解決に向けて総合的に取り組んできた。そして私たちが考案した政策を提言し、参加された方々とそれを共有していきたい。
16:30	新しい日本の都市のカタチ「コンパクトシティ」 露口寛子(総政3年・北原ゼミ)・佐橋美咲・新性佳奈・吉田沙樹 少子高齢化による人口減少が進む中、ショッピングモールの誘致、住宅地造成等、昨今の大規模な市街地開発は果たして意味があるのだろうか。郊外に賑わいを移すことによって、中心市街地の空洞化が進行するだけではなく、市街地を拡大することによって都市管理コストの増大等様々な問題が引き起こされる。そこで提唱されるのが、欧米で始まった施策コンパクトシティ政策である。本発表においては、コンパクトシティのモデルでもある欧米の都市と、日本国内のコンパクトシティの代表例である富山市を比較しながら、新しい都市の形を提案する。
17:00	もしも〇〇が世界遺産になったら～世界遺産の環境保全対策を考える～ 武田奈桜(総政3年・宮川ゼミ)・跡部豪・下村直輝 世界遺産登録地は、観光地として賑わいを見せている。世界遺産に登録された地域の多くでは、観光客数の増加によって、地域の活性化や観光業の発展も見られるようになった。しかし、一方では、それらに付随して環境破壊が報告されている場合もあり、世界遺産への登録によって、世界遺産の本来の目的と反する結果が生じている事例もみられる。本研究では、これまでに世界遺産になった地域に関する統計データおよびアンケート調査の結果を活用して、世界自然遺産への登録を目指している「奄美・琉球」地域が今後世界自然遺産に登録された後の、環境破壊を防ぐための対策を提案する。

第1日(11月20日)口頭発表C会場(Ⅱ号館111教室)

11:00	進む晩婚化～私たちの結婚はいつ？～ 清原礼美(総政3年)・今西菜実季・北原梨花子・播本知大 現在の日本社会では晩婚化が進んでおり、現在の初婚年齢は1993年に男性28.4歳、女性26.1歳であったのに比べ、2011年には男性30.7歳、女性29歳と10年前に比べ2歳上がっている。このように晩婚化は進んでいる現状であり、少子高齢化につながる大きな社会問題となっている。しかし、20代の「結婚したい」割合は男性で70%、女性では86%と、結婚への意欲と実際の初婚年齢は大きく差が見られる。本研究では、学歴、職業など、どのような要因が時間とともに結婚のタイミングに影響しているのかについてデータを用いて検証したい。
11:30	IF JAPAN TAKES THE SOCIAL SYSTEMS OF EUROPE FOR WOMEN TO PARTICIPATE IN THE SOCIETY, 西岡花蓮(総政3年; Sawyerゼミ)・三浦唯花 In Japanese society, women continue to face discrimination in the workplace only because of their gender and their distinctive life events. We will discuss what European countries have done to encourage women to work, and how Japan should refer European policies. We will include European due to the policy for the value of work-life-balance and flex-time policies to restart working easily to after giving birth. The Japanese government create policies to allow women to make best use of their time, including overtime work, paid vacation, maternity leave, and a positive environment for child-raising.
12:00	虐待の世代間連鎖に関する一研究 加藤千明(総政3年; 李ゼミ)・宗近大輔・太田凌祐 今日、日本社会では虐待への関心が高まり、虐待に関する報道が増えてきている。では、虐待とは具体的にどのようなことだろうか。そこで本調査では、どのような背景を持った人間がどのような育児観を持っているのかを研究したい。 [目的]今日の日本社会では体罰体験と育児観にはどのような関係があるのかを研究する。 [方法]大学生を対象としたアンケートを使用し平均値の差の検定等を行う。 [結果・考察]発表の当日その詳細を示すこととする。 [結論]発表の当日分析の結果を示し、その考察・提言を行う。
12:30	東日本大震災による日本産業技術構造の変化～産業連関表を用いた分析～ 邑田圭佑(総政4年; 中野ゼミ)・大畑陽介・田中敦大・松田将岐・武田拓磨 2011年3月11日の東日本大震災は日本の産業活動に大きな影響をもたらした。総務省が発行する2005年、2011年の産業連関表は日本経済をメゾ経済レベルでとらえ、産業の流れを数値的に記録している。この自然災害では、特に製造業が停滞した。産業連関分析では産業間のこうした取引関係の停滞を分析することができる。大きな自然災害が生じていなければ、このようなメゾ経済分析を行うことはできなかったと考えられ、1000年に1回の大きな取組みと言っても過言ではない。今後も地震をはじめとした自然災害が起きる国として重要な研究である。
13:00	我が国における財政再建の実証研究 上之郷谷菜月(総政3年; 亀田ゼミ)・溝端俊貴・中村優希 2014年、我が国では財政再建の一つとして消費税増税が行われたが、2020年度目標の国・地方を合わせた基礎的財政収支黒字化を達成できるかは不明である。そのため、消費税増税や歳出削減、成長期待といった財政再建策をどう進めていくのか、本当に有効な財政再建策とは何か、我が国ではさらに議論を進めていく必要がある。そこで、本稿ではAlesina et al (2002)のフレームワークを用いて、「歳出削減は労働市場を通して民間投資を誘発し、財政再建に効果があるのか」を検証し、歳入と歳出のどの分野が民間投資に影響を与えるのか、またより細かい視点から民間投資を上げるにはどうしたらよいかを考えていく。
13:30	日本人が選好する最適税率とは？ 平山真理(総政3年; 亀田ゼミ)・竹本匡宏 昨年、話題になった著書にピケティ氏の「21世紀の資本」がある。ベストセラーの経済書と言われ、多くの書店で平積みされ、あまりの分厚さに思わず手に取った方も多いでしょう。「21世紀の資本」のメインテーマでもある「格差」、この問題こそが世界中の人々にとって関心の的だったのかもしれない。実際、日本でも格差の二極化は年々広がっている。ではこの「格差」を政府はどう解消していけばいいのか。所得分配に大きな影響を及ぼす税の代表である所得税に目を向け、この疑問を解き明かしていく。

15:00	連帯感意識による政治参加意識の向上 山崎麻衣(総政3年;長峯ゼミ)・山下雄平・酒井美菜子・井口史菜 望ましい政治参加のあり方を課題とし、現状分析と政策提言を行う。私たちの考える望ましい政治参加とは、国民が選挙に行くことを通して政治に参加することである。集団参加による義務感の定着は、政治的有効性感覚(有権者一人ひとりに政治を変える力があるという意識)を高めることに繋がるのではないかと仮説を立て、連帯感による政治参加意識の向上が投票率の引き上げに繋がるかを考察する。市民参加を促進するための街づくりによって投票率を引き上げる政策提言をし、その政策が投票率の引き上げに有効であるかを明らかにする。
15:30	黄色い傘に降る赤い雨～雨傘運動と香港～ 木村美玖(総政3年;井上ゼミ)・池田圭弘・大西里奈・羅川直也・田中慎一郎・趙曉龍・ 秤谷明日斗・林祐一郎・溝江真理子・宮本美希子・安留仁吾 みなさんは香港のことをどれくらい知っていますか？なんとなく元々はイギリスの領地であった事実や、現在の中国本土との違いを知っていたり、一国二制度という言葉を知っていたりしたことはあっても、詳しく知っている方は少ないと思います。私たちは、香港というアジアの中心地でありながら特殊な環境において、去年発生した雨傘運動に焦点をあて、政治・経済・文化など様々な観点からデモを分析し、さらには今後の香港の展望について考察します。
16:00	若者の投票率を上げるには～ネット投票の導入～ 三木万裕佳(総政3年;長峯ゼミ)・江戸智哉・北野佑佳・金鉄龍・宮崎志乃 皆さんは投票に行ったことがあるだろうか。現在、日本の投票率は約半数であり、20代の投票率は特に低い結果となっている。高齢者の投票率が高く、若者の投票率が低いと、高齢者の為の政策に傾く原因となり、これからの日本の社会を担っていく若者にとって問題である。なぜ若者は投票に行かないのだろうか。その理由を分析し、現代の若者のツールであるネットを使った投票制度を提案する。またそのデメリットも予想し、解決策を提案する。
16:30	義務投票制度が政治に与える影響とは 細井美里(総政3年;大村ゼミ)・大橋美咲・小西璃奈・瀬尾陽介・西影真伊規・西村建哉・藤村達矢 日本ではしばしばメディアなどで投票率の低下が取り上げられ、問題視されている。そこで我々はその投票率と密接に関わっているといえる義務投票制度に着眼した。具体的にいうと、義務投票制度がもたらす影響とは果たして投票率の改善だけにとどまるものであろうかという事である。その結果、義務投票制度の導入によって政党の勢力図が変化する可能性が高くなるのではないかと仮説を導き出した。今回の研究発表では義務投票制度導入による野党の台頭、またその野党の特徴を統計的要素を絡めながら説明していく。
17:00	日本の若者の投票率を学校教育によって改善する～シティズンシップ教育導入の検討～ 日高祐太郎(総政3年;長峯ゼミ)・土井菜都子・前谷成美・光平勇貴・鷲尾七海 選挙とは、民主主義社会の根幹を担うシステムであるが、現在の日本における選挙・投票行動には多数の問題が見受けられる。その中でも投票率の低下は深刻な状態で、特に若年層の投票率は他の年代に比べ、著しく低下している。そこで私たちは選挙啓発に焦点を置き、若年層の投票率改善を目標とした。世界に目を向けると、高水準の投票率を維持している国や、先進的な取り組みを行っている国が存在する。そのような国々と日本の現状や対策を調査、比較し独自に評価することによってどのような政策が必要なのか検討し、その実現可能性を検証する。
17:30	人はいつから大人になるの？～選挙権年齢の引き下げを受けて、成人の線引について再考する～ 竜門和諒(総政4年;鎌田ゼミ)・赤嶺真・浅田有香・門禎之・川野有紀・田代えり・浮田壮規 今国会で選挙権年齢の18歳への引き下げが決定し、大人の区切りが変わった。成人には、与えられる権利と同時に、責任と義務とが課される。そもそも成人とはどのような状態を指すのか。成人の線引きは、社会や文化、時代によって異なり、絶対的な基準が存在しない。日本では、かつては数え年が、現代でも進学、就活等の重要な出来事は年度で一括して区切られてきたのに対し、成人の基準は個人の満年齢である。本発表では、人間の成長と成人に関する人文科学の研究から、成人の定義と線引きの方法を検討・提案する。

第1日(11月20日)口頭発表D会場(Ⅱ号館201教室)

11:00	エンターテインメントで貧困解決 <i>上垣内知洋(総政2年; 関西学院大学GSR研究会)・寺川諒・藤田安紗美・内藤早百合・西村建哉(総政3年)・井上凌・松浦果穂(総政4年)・林利憲</i> 2015年10月3日にGSR学生アイデアコンテストに出場し、優秀賞を受賞した作品です。 フィリピンで大きな問題となっている「ストリートチルドレン問題」。この問題は、保護するだけでは解決できない。この問題を解決するには子供たちに自立してもらうスキルを身につけてもらわなくてはならないのである。このことを基に練られたこの事業プラン。ANAホールディングス、そしてBenesseホールディングスこの2社のリソースと、フィリピン現地NGOChildhopeと協働し、この問題の解決に取り組むプランを提案する。
11:30	カンボジアの貧困から考える日本人の食への無関心 <i>半田翔也(関学高等部2年)・東寛之・月山策雅・濱岡ゆうき</i> 私たち若者は、日々食べ物に対して感謝しているであろうか。昨今、若者の食への無関心が社会問題化している。それにも関わらず、若い世代の間では、これに対し全く問題意識が向けられていないのが現状である。我々4人は今年カンボジアを訪れ、現地の子供の食生活の厳しさを目の当たりにした。貧困に苦しむ彼らと今の日本の若者を比較し、この食への無関心という問題の原因を追究し、そしてその打開策を提案したいと思う。
12:00	国際協力をより身近なものに <i>神谷直人(総政3年; 園田ゼミ)・草野歩惟・松本千歩</i> 国際協力がどのように行われているのか。日本が従来重視している教育分野での途上国支援の成果と課題を検討し、今後の国際教育支援のあり方を考える。とくに初等教育の完全普及は、国連のミレニアム開発目標(MDGs)の一つであり、教育問題は持続可能な発展を目指して、引続き国際社会全体で取り組むべき重要課題である。また、学部創設20周年の節目にあたり、卒業生からの情報をもとに、協力現場の実状について理解を深める。先輩方から引継いだ総合政策学部を再認識し、就職活動や将来のキャリアに向けて、これからの学生生活の中で参考にする機会としたい。
12:30	カンボジアの子供達が受けている問題とは <i>松浦裕樹(関学高等部2年)・吉田圭吾・貞本直輝・福岡寛久</i> カンボジアでは子供に様々な問題が降りかかっています。主に人身売買や学校に行かずに家族の手伝い(農業、商売)が挙げられます。人身売買に関しては警察も対処しきれていない、社会問題にもなっています。先進国に生きる私たちがその問題が存在している事を知ることが第一に重要であり、その次に問題解決に取り組むべきであり、現地に行かずとも支援団体に寄付金を送る等の支援の形があると思います。
13:00	アジアの「わ」の作り方～経済の「輪」、そして世界の「和」～ <i>齋藤綾乃(総政3年; 坂口ゼミ)・橘高成美・福本沙耶香・中村翔子・村上亮太・福富真理</i> アジアは一つになれないのか? ヨーロッパのような協力・統合は無理なのか? 「アジアの時代」と言われて久しいが、アジアは今その成長に驕りが見え始めている。また中国の台頭に伴い中国と周辺各国等との摩擦が急拡大している。未来の平和と発展のために「アジアの協力・統合」を考える時に来ているのではないだろうか。EUはギリシャ問題という試練に直面しつつ遅く統合を深化させている。政治体制や発展段階の違い等の点ではるかに統合のハードルが高いアジアについて、先行EUモデルとの比較で考察しつつ、「アジア型統合」を提言する。
13:30	健康な世界をつくる～TFT×高校生～ <i>張しんめい(京都学園高校1年)・笹井萌・佐々木梨乃・佐藤くるみ・析折舞優・安井梨乃</i> 近年、先進国と途上国の食糧問題の格差が大きくなり、世界中には肥満で苦しんでいる人が約20億人。飢餓で苦しんでいる人が10億人もいる。その食の不均衡を埋めるべく注目されつつあるのがNPO法人 Table for Two Internationalである。TFTは合わせて582の大企業、大学で主に活動し、同時に国内外の大企業、大学にも普及している。そしてその結果として、TFTの知名度、実績が上がっているが更なる普及、発展が必要と考える。そしてその現状を見るとき、果たしてこの活動方針で良いのだろうか。現時点で高校生以下で広める活動はない。なぜ高校生以下に広まっていけないのだろうか。という問題について考察する。私達高校生以下での知名度向上、そして食糧問題の是正を図るために、新たな提案を2つ提唱する。

15:00	東アジアにおける自由貿易協定締結の経済への影響 田沼孝太(総政3年・亀田ゼミ)・福家実明・韓榮均 現在、中国と韓国は、FTAを結び経済大国になろうとしている。そこで、我々は、日本、中国、韓国でFTAを結ぶことによって、中韓FTAに対抗するための政策を提案していこうと考えている。さらに、日本、中国、韓国に生じている農業問題についての対策も提案していこうと考えている。
15:30	委員会設置会社でいいんかい！！～日本企業がとるべき制度とは？～ 倉希良々(総政3年・古川ゼミ)・蟹澤凜・西原啓太・和田康平・臼井穂乃佳・佐藤匡紀 2015年7月29日、東芝の不正会計問題が世間を騒がせた。東芝は委員会設置会社(社外の取締役が経営を監査している会社)であり、本来ならば委員会による厳しい監査が行われているはずである。しかし実際に、このような問題が起こってしまったということは、その背景に委員会設置会社が企業業績に対し効果的に機能していない現状があるのではないかと私たちは考え、委員会設置会社と他の企業(監査役設置会社)との差を様々な角度から検証しました。さらに、委員会設置会社の制度が企業業績に貢献している/いない原因を分析、考察していきます。
16:00	派遣労働は悪か？！ 岡優希(総政3年・坂口ゼミ)・橘田佳和・河原莉子・無津呂桜子 派遣労働は悪か？！ 派遣労働といえば「景気の調整弁」「不安定で低賃金」といったイメージを持つ人も多いだろう。確かにそのような問題も抱えているが、一方で柔軟な働き方を選択するため、また、自分の専門的な能力を発揮するために派遣労働者になった人が存在する。派遣労働を規制することが本当に労働者のためになっているのだろうか。また、最近話題になっている「改正労働者派遣法」のいったい何が問題なのか？ この法改正で日本の派遣労働はどう変わるのか？今後の日本の派遣労働のあり方を正社員の働き方と共に考える。
16:30	在日のためのワーホリ情報発信研究 李沙耶(総政4年) 在日韓国人という、社会ではマイナーに属する人々に向けた有効な情報発信がこの研究の主旨である。韓国籍を有する在日韓国人は韓国人としてビザを申請しなければならないが、日本の留学エージェンシーでは取り扱っている所も少なく、また韓国に住んでいる訳もなく、韓国語が完璧でもないのに申請方法に時間とお金、労力がかかると思われる。在日韓国人向けに確か有益な情報を発信して行くことがこの研究の目的である。
17:00	播州織の再興について 岡本拓也(総政3年) 全国の先染織物として80%ものシェアを誇っている播州織。それだけのシェアを占めていながらも、生産量はここ数年で相当低下しており、厳しい状況下に立たされている。その播州織の再興をヒトとハコの土壌づくりで提案し、検証していく。
17:30	Appleの製品戦略～今後の展望は？？～ 恒川貴紀(総政3年・古川ゼミ)・羽場稔八・小田研人・安田未柚・武田千弥・中村彩実 現在、世界有数のインターネット・デジタル製品関連企業として名高いApple社。日本でのiPhoneのシェアは長期にわたって断トツであり、iPhoneだけでなく毎日至る所で様々なApple製品を目にするようになった。しかし、激しい市場競争の中で、シェアを伸ばしていけるという保証はどこにもない。我々はApple製品が売れる様々な要因について考えると共に、大学生を対象にアンケート調査を実施し、その分析結果をもとにAppleはシェア拡大のために今後こういった製品、経営戦略をとるべきなのかを考察・提案していきたい。

第1日(11月20日)口頭発表E会場(Ⅱ号館204教室)

11:00	小学校教育改革～ブランド化された人生観を打ち破れ～ <i>中谷悠人(総政3年; 細見ゼミ)・奥田彩加・金大晟・井上凌・撫中花香・日野上愛</i> 有名大学を出て、大企業に就職すること。それがあなたの理想の人生ではありませんか？しかし、その人生を歩むのは、ほんの一握りの人だけです。それでも、親から周りから褒められたい、自分が安心したいがためにブランド品(有名大学に行くことや大企業に入ること)を身に着けたがります。こういった考えに陥る原因は、幼い頃からの教育にあるのではないだろうか私たちは考えました。子供の自主性、独創性はどのようにすれば作り上げることができるのか、大人になったとき明確な夢を持つことができるように、日本の新たな教育モデルを提言したい。
11:30	子育てが与える人格形成への影響～デンマークの「対話教育」「自立」の考え方から学ぶ～ <i>三宅幸(総政3年; 村瀬ゼミ)・高村美真・中尾桃子</i> 現代の日本社会においては、人間生活の多くの側面に競争原理が浸透しており、経済性・効率性を優先する風潮の中で、人間観や人生観の画一化が進行していると思われる。とりわけ学校教育において顕著なこの傾向は、高齢化が進む近年ますます問題視されている、生きがいや個性の喪失の一つの背景と言えるであろう。そのような現状において、どうすれば一人一人の人格が尊重される社会を構築することができるのだろうか。この課題に対してわれわれは、「対話教育」と子どもの「自立」を重視するデンマークにおける教育観・子ども観を手がかりにして改善策を論じたい。
12:00	学生にとっての理想の大学とは？～大学のあり方を考える～ <i>清水万裕(総政3年; 細見ゼミ)・池田遼介・伊勢真樹子・佐藤将平・山田早紀</i> 学生の皆さんは、大学で本当に自分が学びたいことを勉強できていますか？ 私たちの周りには、進路選択の際に自分が本当に学びたいことがよく分からないまま、学部や専攻科目を選んでしまった、自分が学びたいことよりも就職に有利になることを優先して進路を選択したり、勉強に対して明確な意思を持っていない学生が多いように感じます。この研究発表では、そもそも大学は何のためにあるのかという疑問を解明し、学生を対象としたアンケート、大学教育に関する先行研究をもとに、学生が主体的に考えた“理想の大学”を提案します。
12:30	学生支援の適正化について <i>片山翔太(総合政策4年; 伊佐田ゼミ)</i> 日本の高等教育進学において、奨学金等の経済的な学生援助はもはや不可欠となっている。平均年収の減少などにより、多くの家庭で子供の進学費用全ての負担が難しくなっていると考えられ、日本学生支援機構奨学金の貸与奨学金総額は年々増えている状態だ。高等教育への進学は将来における子の相対的貧困の問題にも相関がある、というデータも存在しており、大学への進学は貧困の世代間格差から抜け出す方法という側面を持つ。本研究では、現在の大学生らの属性や高等教育進学や卒業後への意識、また経済面に係る不安要素や現行の学生支援体制への認識などについて調査し、学生の属性による上記の傾向を明らかにする。
13:00	アンケート調査・インタビュー調査における信憑性の比較 <i>大庭七海(総政4年; Heffernanゼミ)・隅田優作・塩谷佳奈・庄司奈津美</i> アンケート調査は授業、就職活動などになくてならないものである。しかし、アンケートは必ず現実を反映しているのだろうか？アンケート調査とインタビュー調査の2通りの方法を試し、それぞれの集計結果を比較することとした。本研究をおこなった結果、「アンケート調査とインタビュー調査は場合によって使い分けるべきである」という結論に至った。例えば、言語についての調査はインタビュー方式が適切である。なぜなら、言語を話すということは、無意識に行われるからである。一方アンケート調査は、AとBどちらが好きなのかなど意識した上の行為などには適切である。
13:30	Same-sex marriage in Japan and the USA: Differences in consciousness and values <i>浜田英梨子(総政3年; Sawyerゼミ)・須磨美貴・豊住奈緒子</i> The American Supreme Court handed down a decision accepting same-sex marriage in June of this year. In another context, a “partnership certificate” has been offered in Tokyo since April, although same-sex marriage is not accepted legally in Japan. It is widely thought that it is discriminatory to prohibit marriage due one’s “natural” sexual orientation, not something one can choose by oneself. Voices for the legislation of same-sex marriage are increasing.

15:00	ミースファンデルローエの空間構成に関する研究 梅田朋佳(総政M1) モダニズム建築を代表する建築家、ミース・ファンデル・ローエは、多様な機能に適合可能なユニバーサル・スペースを提唱している。ユニバーサル・スペースとは、内部空間を限定せず、自由に使えるようにしようとするモダニズム建築の理念の一つである。それは、モノが行為の邪魔をしないほうがよいという近代の建築や空間の考え方がもととなっている。この理念はモダニズム建築において様々な建築家に取り入れられている。とくに、この時代の新しい材料であったガラスと鉄、そして新しい構法で設計されたガラスのスカイスクレーパー案においては、現在のオフィスビルの根本的なデザインとなっている。そこで本研究では、ユニバーサル・スペースに代表されるミース・ファンデル・ローエの空間構成の理念を、ミースが残した「言葉」、彼が活躍した「時代」、そしてローエの設計手法等の間の関係を考察する。そして現在におけるユニバーサル・スペースの設計に、それらの結果を反映させることを考えている。
15:30	小林一三と宝塚市開発～地方創生に向けて～ 辻本和也(総政M1) 宝塚市の観光産業は、阪急東宝グループの創始者である小林一三が行った。彼の独自の開発は様々な工夫が存在していることが、著書などで知られる。宝塚市における都市開発を分析、解明していくことで、日本の衰退した地方都市の創生にむけて、コンパクトシティではなく日本の都市構造にあった新しい社会システムの解明を目的とし、宝塚市の社会システムを解明していく。
16:00	新聞記事データベースにおける『発達障害』と『自閉症』～全国紙における概念の変遷と比較～ 宮崎康支(総政D2) 自閉症・アスペルガー症候群・学習障害などを包摂する概念としての『発達障害』という用語が、教育・福祉・行政等の分野において普及している。しかし、『発達障害』の概念は医学においては異なる意味で用いられ、『自閉症』が用語としては日本において以前から知られていた。本報告では、2つの全国紙の記事データにおける『発達障害』と『自閉症』の概念の比較を行う。そして、今後の障害啓発に向けたメディアにおける言語表現の指針および専門家教育に示唆を与えることを目指す。
16:30	中国における温暖化政策 王文凱(総政策M1) 中国は、国レベルのCO₂排出量が2007年に世界の第一位になった。莫大な人口を有することから、一人当たりのCO₂排出量は先進国に比べればまた少ないとしても、国際的な地球温暖化防止枠組においては、温室効果ガスの削減義務が経済成長を制約するという懸念から発展途上国としての立場を鮮明にしている。CO₂を削減するために、炭排放交易制度(排出枠取引制度)、炭税(炭素税)、低炭都市づくりなど目標達成のための関連政策が展開されつつある。現在2015年となって、気候変動対策の現状と課題を考察し、その実態を明らかにする。
17:00	伝統文化である丹波立杭焼が丹波エリアの地域活性化に果たす役割とは？～窯業の現状と問題の分析～ 小林真洋(総政M1) 中世六古窯である丹波立杭焼は、篠山市今田町立杭地区周辺において800年に渡り、日常的な焼物を生産してきた。しかし、深刻化する過疎化や人口減少による後継者の問題、電気窯・ガス窯という近代技術の参入、里山の荒廃に伴う薪に用いられるアカマツ材の減少等の問題から、本来の伝統文化としての丹波立杭焼と窯業集落としての人々の生業・生活は変化しつつあると考えられる。そこで本研究では、窯元が集中的に分布している兵庫県篠山市今田町の立杭周辺地域に焦点を当て、現状と問題を整理し、丹波焼が地域活性化に与える影響を解明することを目的とする。
17:30	豊かな食環境で健康寿命は延びるのか？ ～持続可能な食環境を探る～ 佐伯民江(総政M1) 日本の食糧自給率低下に基づくフード・システムは、多くの問題を抱えている。グローバル市場から、あらゆる食材を手に入れながら、人々が健康寿命を終えた後に平均10年以上も要介護に陥る状況で、未来社会への負担になっていることから分かる。要介護になる原因の大半が先進国の病と言われる生活習慣病である。本発表は、経済至上・輸入中心の消費文化、過剰な肉食文化への反省に基づき、消費者の側の価値観、ライフスタイルを振り返るきっかけを提供し、持続可能な食環境を追求することを目的とする。

ポスター発表(ディスカッション・タイムは11月20日[金]14:00～15:00)

P1	日本における愛国心と政治 安藤真子(総政3年)・井手尚経・祇園涼介・三木千尋 現代を生きる日本人が、どのような「日本」観を持ち、その源流は何なのかを探る。さらにその「日本」観のなかに、「愛国心」の素があると考え、戦後の日本人がどのような「愛国心」を抱いてきたのかを考える。その作業の第一段階としては、愛国心についての評論をした内田樹・白井聡両氏の『日本戦後史論』を批判的に検証し、第二段階として、我々自身が日本についてどのような思想を持ち、それが日本の政治にどのような影響を与えるのかを検証してみることとする。
P2	欧州と日本の少子化対策 細井美里(総政3年;大村ゼミ) ヨーロッパでは少子化が改善しているにもかかわらず、同じ先進国である日本では少子化が改善されていない。これはどのような理由によるものなのかを分析する。少子化の要因としては、所得の問題や家族のあり方の変化、宗教上の理由など様々なものが考えられる。この中で、女性の社会進出に着目して研究を進める。女性の社会進出を後押しする制度を整えることで、少子化がどの程度改善するのかを分析し、少子化の改善に成功している国の例より、日本の少子化を改善するためのヒントを得ることを本研究の目的とする。
P3	カネテツの新市場開拓戦略～台湾での販売促進・PR～ 加藤実彩(総政3年;安ゼミ)・大石巧磨・高橋沙耶・岡部雄太・武藤亘輝・延安亮哉・登林弘貴・西田幸司・吉本充希・廣畑舞・佐藤誉子・大城賢人・福住圭祐・南寿理梨・織田智子 現在、日本の水産練り物(かまぼこ・ちくわなど)の市場が縮小している。我々安ゼミは、水産練り物製品を扱い関西での売上1位を誇るカネテツデリカフーズ(株)様が抱える最大の経営課題について、解決を目指す。経営課題として“国内での市場の縮小”が挙げられるので、海外での新市場の開拓を目標として設定する。海外の市場の中でも、台湾市場に焦点を置き、新商品の進出と販売促進を行う。台湾市場や現地の方々のニーズを知るために9月に行った台湾での現地調査を踏まえて、進出や販売促進を行う際の問題について考察し、安ゼミらしい解決方法を提案する。
P4	知的障害者の犯罪と生活拠点との関連性 上間友希菜(総政4年;李ゼミ) 毎年200人の知的障害者が犯罪をおこない、刑務所に入所している。平成26年度の矯正統計年報によると犯罪者全体では、約2万人である。つまり、知的障害者の犯罪の比率は、1%程度なのである。つまり、知的障害そのものが犯罪要因になっているわけではない。知的障害者の犯罪は一体何が関係しているのか？ 本研究では、知的障害者が犯罪を行う際に生活拠点としていた場所に焦点をあて、検証を行う。また、その居場所によって知的障害者がおかれている状況を考察していく。
P5	児童虐待は親から子へ伝染するのか？～虐待的育児観の世代間連鎖に関する実証研究～ 木内友梨(総政3年;李ゼミ)・上田若奈・大山康平・河田公輝 [目的]近年表面化している体罰問題の背景には、子供の頃の体罰体験が影響していると考えられている。本論では、過去の体罰体験が育児観に影響を与えるのかを学習理論に依拠しつつ実証を行う。 [方法]大学生を対象としたアンケートを使用し、平均値の差の検定等を行う。 [結果・考察]発表の当日その詳細を示すこととする。 [結論]発表の当日分析の結果を示し、その考察・提言を行う。
P6	外国人労働者の職務満足度に関する研究 李善仁(総政M2) 本研究では、外国人労働者が経験する文化適応ストレスが職務満足度に与える影響を把握して、外国人労働者が持っている社会的資源である母国人との社会的相互作用と、日本人との社会的相互作用に基づいて、職務満足度にどのような違いがあるのかを明らかにする目的としている。
P7	大学生の結婚に対する意識と理想の婚活 笠原佑麻(総政3年;安高ゼミ)・浅野健太・梅原惇・木場田祐輔 少子化の主な原因は、近年上昇傾向にある未婚化や晩婚化であると一般的にはされている。しかし一方では近頃の、恋愛ドラマや有名芸能人の結婚が大きな話題となり、やはり結婚に対する憧れは多くの人が抱いているものなのではなかろうか。そこで、我々は最近の若者は結婚したくてもできないのではないのではなかろうか。また、それはまず理想的な相手を見つけることが難しいからではないか、という仮説をたて、婚活に注目した。婚活には、未婚化・晩婚化を食い止められる可能性はあるのか。さらに、結婚適齢期を迎える理想的な婚活とはどういうものかを検証する。
P8	ラブリーな町ライブラリー 京井輝生(総政3年;清水ゼミ)・中谷剛士・角田実芳 日本には多くの空き家があり、現在重要な問題となり解決策を考えていかないといけない。空き家を再利用し空き家の数を減らし地域の活性化を図る一つの例が、まちライブラリーと言われる住民の交流の場や小さな観光資源にもなりうる空き家活用方法です。全国のまちライブラリーを調査することにより、まちライブラリーを分類し綺麗でどのかな兵庫県丹波市柏原町に適した、まちライブラリーを考える。

P9	市民参加型まちづくりにおける若者の参画 金澤早紀子(総政3年; 齊藤ゼミ)・川上綾香・岸友美・太田悠紀子 近年、市民参加型のまちづくりが主流となってきたが、その現場に若者の姿は少ない。実際に地域を引っ張り活動している人々の多くは高齢者であり、今後の担い手不足が問題となっている。地域における課題を解決し、地域を良くしていくためには、革新的なアイデアを持ち活力のある若者の協力が不可欠である。そこで、実際に地域でまちづくりに関わる人々に現状を調査したうえで、「なぜ若者はまちづくりに参加しないのか」について学生を対象にアンケートをとり、分析し、課題解決に向けて考察・提案を行う。
P10	分譲マンションの共用施設におけるコミュニティ活動について 笹倉麻衣(総政M2) 社会からのコミュニティ形成に対するニーズから、不動産デベロッパーが「コミュニティ」を1つの販売ポイントとしてコミュニティ形成を核とした多彩な共用施設やそれに付随するソフトサービス、また運営主体の仕組みを供給している。本研究では特に共用施設が充実している大規模(300戸以上)分譲マンションにおいて、それらの共用施設やソフトサービス、運営主体の仕組みが分譲マンションにおけるコミュニティ形成のきっかけづくりに役立っているといった仮説のもと、今日にいたるまでどのような共用施設あるいはソフトサービスが供給され、またそれらはどのようにコミュニティ形成に役立っているのかを調査し、共用施設を核としたコミュニティ形成の在り方を明らかにすることを目的とする。
P11	京町家の減少！？ 柴田実歩(総政3年; 北原ゼミ)・横川大樹・劉 双達 京町屋の減少！？ 京都には様々な魅力があるが、近年、注目を浴びているものの一つに その町並みがある。その町並みは京町屋と呼ばれる家並みによって構成され、終戦前の建物が今も多く残っている。ところが、近年様々な理由からこの京町屋が減少している。町屋の跡地には、町屋が建てられることはなく、中高層のマンションが建てられ、京都らしい町並みが失われていっている。京都市には2007年に新景観条例を施行し、京町屋の減少の食い止めに図った。そこで私たちは、どうして京町屋が減少し、また新景観条例によって減少を抑えることができたのかを明らかにし、発表する。
P12	北陸新幹線開業に対する金沢市民の意識調査 千葉真子(総政3年)・宮田奈緒・深野真由・東航平 観光地において観光客が急増した場合、地元の人はそれをどう捉えるのだろうか。今回は、今年の春に北陸新幹線が開通した石川県金沢市にフォーカスを当てた。主に金沢市民を対象とし、新幹線の開通に満足しているか、また、そこにはどんな要因が関係しているかをアンケート調査した。我々の予想に反し、観光客は増えたが騒音や治安悪化をあまり気にしていない事が分かった。また、ほとんどの人が新幹線の開通に満足しているようだ。しかし、自分や家族が新幹線を使うから開通に賛成であるという人の他に、新幹線とほぼ無縁であり、今後使う予定がないのに賛成である人が多くみられた。この後者にある要因などは今後分析を進めていくが、確かにこの両者の間には温度差があるように思える。
P13	Malacca ～～ 長澤麻弥(総政3年; 山根ゼミ)・佐野綾香 マレーシアは長期に渡って植民地時代が続き、中国やインドからの移民が多いが今もなおたくさんの方が住んでいる国である。そのような国において、同郷者同士が集まる施設やコミュニティを形成するケースが多い。今回は、マレーシアの南部にあるマラッカという都市に焦点を絞り、マラッカではどのようなコミュニティの広がり方をしているのかを調査する。
P14	地域に輝きを！～若者が限界集落に求める条件とは？～ 本郷紫之(総政3年; 安高ゼミ)・井戸理貴・寺本瑛美・谷野晴哉 近年、国内の地方では過疎化・高齢化により「限界集落」が増え、深刻な問題となっている。そこで私たちはその問題を解決する糸口を見出すため、大阪府で唯一の限界集落である千早赤阪村に向き、限界集落の現状を調査した。加えて、これから社会を担っていく中学生から30代までの男女300人を対象に、限界集落に移住するときの条件などを問うアンケートを実施した。アンケートでは若者が限界集落移住の際に求めるものの傾向、過去に田舎に訪れたことがあるかどうか、人生において何を優先するかなどを調査し、限界集落に住んでみたいと思う気持ちとの因果関係があるかを考察した。その結果より、どうすれば限界集落に若者が移住してくれるかを提案していく。
P15	中山間地域における地域再生政策～ふるさと納税(ふるさと寄付金制度)に着目して～ 前川裕量(総政M2) 現在、中山間地域は少子高齢化と共に過疎化が進む中、地域再生、地域創生が大きな課題となっている。その中で今大きな期待が寄せられている、ふるさと納税制度であるが、特に近年、多くの問題点も指摘されている。特に、特典としての特産物の過剰提供などにより、本来の意義から逸脱しているのではないだろうか。そこで本研究は、ふるさと納税制度とふるさと会員制度との比較を行い、ふるさと納税制度の問題点を明らかにし、再度本来の意義を考慮される政策の提案をしていきたい。

P16	学校におけるバリアの現状 若林寧々(総政3年・山根ゼミ)・中野莉絵 今回、私たちは学校におけるバリアの現状をテーマとする。多くのバリアフリー先進国では「ノーマライゼーション」の理念のもと、全ての人が等しく生活できる社会を目指している。アメリカなどでは、物質的なバリアフリーはもちろん、普段の生活の中で健常者と障がい者が分けられていない文化的なバリアフリーも進んでいる。一方で、日本はまだこれらの考え方が浸透しておらず、環境が整っていない。今回は、誰もが通い学ぶ施設である学校に焦点をあて、全ての児童が障がいを感じない社会づくりにするために具体的にどのような問題があるのか、障がい児にとってのバリアの現状を明らかにする。
P17	水と暮らす～地球環境時代の新しいライフスタイル～ 大石綾(総政3年・客野ゼミ)・三品寺瑤子・木村小絵美・田中佑季 川は昔から人々の生活に深くかかわってきている。川は人々が生活するうえで重要な存在であり、様々な機能をわれわれに提供している。しかし、川との共存には時には問題が生じる。例えば鬼怒川が決壊したことは記憶に新しい。昨今、東日本の津波被害や川の増水被害など日本の多くの地域が水害に直面し、水害に関して関心が高まっている。そこで私たちは川の機能や環境的な側面を再認識するとともに、過去の被害をもとにした新たな水と人間との関係性を提案する。そして、景観、環境、避難が両立する新しい時代の水辺空間の姿の、そのための計画のあり方について考察する。
P18	デリーの中世イスラム遺跡をめぐる保存と都市計画 中安楓(総政3年・山根ゼミ)・田中理沙・藤山洋斗 インドでは、13世紀初頭から16世紀半ばのサルタナット期に建てられたイスラム建築が多く存在する。約50年前に東京大学インド史跡調査団により、デリーに残存する建築遺跡の調査が行われた。現在、インドの都市は急速に発達を続けている。それに伴い、インドには多くの住宅が建てられ、欧米のような区画された住宅ばかりではなく、自然発生的に住宅が建てられた地域も存在する。そうした現状の中、デリーの遺跡建築の保存状態、修復の有無、周辺状況などを50年前の調査と比較することによって、都市がどのように変化をしているのか、またデリーの地区ごとでどのような違いがあるのか、などその都市のあり方を分析する。
P19	マレーシアにおける港市の都市構成に関する研究～マラッカ・ペナンを事例として～ 武末佐恵加(総政M2) 本研究は、インド洋海域世界における東南アジアの港市として形成され、発展したマレーシアのマラッカ、ペナンを対象とし、それらの都市構成や建築空間の特質を明らかにすることを目的とする。本研究では、これら二つの港市を対象とし、華人やインド人、マレー系住民の混住により、どのような都市空間が形成されてきたのかを、民族、宗教、出身地などから構成される各コミュニティの集住形態を視点として明らかにする。
P20	高齢化する郊外住宅地の再生～高齢社会のまちづくり～ 平井智也(総政4年・角野ゼミ) 高度経済成長の人口増加に伴い、計画的に造成されてきた郊外住宅地。現在、多くの郊外住宅地が日本全国に点在している。しかし、その郊外住宅地において少子化、高齢化、空き家問題、施設の老朽化、コミュニティの希薄化など多くの問題が深刻化している。郊外住宅地の特性上、同世代の世帯が一斉に転入してくるため、その世帯が同時に年を重ね、高齢化も急速に進行するといわれている。今回は、その高齢化に注目し、郊外住宅地における高齢化対策、持続可能なまちづくりについて研究を進める。
P21	木造応急仮設住宅の展開に関する考察～木造仮設住宅供給のための木造ストックの場としての閉鎖ガソリンスタンドの利用と木造仮設住宅のモデル化～ 妹尾圭悟(総政M1) 現在、震災が起きたときの仮設住宅の供給順位は木造仮設住宅よりもプレハブ仮設住宅である。そこで、多くの利点をもつ木造仮設住宅が応急仮設住宅の大半を占めることができるようになれば、避難生活が少しでも快適に過ごすことが出来ると考えるすなわち、木に触れることによって、金属性のプレハブ仮設住宅に比べ、精神的に安定感を与えることができる。よって、木造仮設住宅が被災地において即納できる仕組みを提案することを目的とする。
P22	ユキノナイカマクラに明かりを灯そう～屋台を利用した西粟倉村の活性化～ 林田佳澄(総政3年・山根ゼミ)・伊藤早智子・白野佑実 岡山県西粟倉村は人口約1600人という過疎地であるが、林業に力をいれ地域活性化を図っている環境モデル都市である。私たちは研究演習の一環として西粟倉村で木匠塾プロジェクトを行っている。木匠塾とは、地元の資源を活用して地域に役立つものをつくる活動である。今年度は、地域活性化を目的とした祭りを西粟倉村で開催するにあたり、そこで使用する屋台を作成した。そして、祭りで屋台を使用したときの影響を調査し、これを元に地域ならではの資源を活かした屋台は地域活性化を促す一つのツールとなり得るのかを考察する。
P23	県民性の違いに注目してごみ減量政策を考える 下田奈葉(総政3年・宮川ゼミ)・森穂乃花・堀本英里子 近年、日本では県民性の違いが、しばしばメディアに取り上げられ人々の注目を集めている。県民性の違いは、古くから社会構造や民族慣習の地域差として研究されてきたものである。本研究では、一般市民を対象として、県民性やごみ減量行動に関するアンケート調査を実施し、県民性とごみ減量行動との関連性について分析する。また、ごみ減量政策、特にごみ袋の有料化がごみの減量に貢献するのかを、ごみ袋に対する支払意思額等の観点から分析し、より有効なごみ減量政策について考察する。

P24	大学生がカーシェアリングを利用しない理由とその打開策 江洲真希子(総政4年;伊佐田ゼミ) 若者の車離れがすすんでいると言われていた現代、自動車を気軽に借りられるサービス、‘カーシェアリング’が登場している。カーシェアリングを利用後に、自動車の購入意欲が上がるというデータが出てい る。しかし、大学生向けの学割プランもあるが、大学生のカーシェアリング利用の割合は、他の年代と比べると低い傾向がある。その要因をアンケート調査によって明らかにし、打開策を提案することによって大学生のカーシェアリング利用促進を目的とした研究である。
P25	地方自治体における生物多様性地域戦略策定の傾向と特徴の分析 今井田千佳(総政M2) 地球上の自然環境破壊を受け、世界各地で生物多様性地域戦略の策定が進められている。地球規模から地域規模に至る、多層的な戦略をつくることにより、地域の特徴に応じた現実的な戦略の立案が可能となるとともに、広域的な視点からの自然環境保全も担保される。日本においても、国、都道府県、市町村レベルでの立案が進められているが、市町村レベルではほとんどこれが立案されていない状況にある。そこで本研究では、生物多様性地域戦略の立案に関して、策定の有無に影響する要因を統計的手法により明らかにするとともに、策定済みの自治体へのヒアリング調査を実施することにより、その内容や特徴、運用状の問題点、他の計画との整合性や関係性、その実効性などについて分析する。
P26	窓ガラスへのバードストライクから見た街作り 松田真美(総政3年;今井ゼミ)・池愛純・山田実佳 みなさんは「バードストライク」と聞いて何を思い浮かべるだろうか。恐らく多くの方は「鳥と航空機との衝突」を思い浮かべるだろう。しかし、バードストライクとは「鳥と人工物の衝突」を指す。鳥と航空機との衝突は人間の命をも危険にさらす大きな問題としてニュースで取り上げられることもあるが、人間の命に関わらない所で、人間の作った物により鳥は命の危険にさらされているのである。この見落とされてきた問題に気付くことこそが幅広い視野で物事を捉える総合政策学部の学生としてできることなのではないだろうか。
P27	どうする？ 観光地の環境美化に関わる問題 池内麻衣(総政3年)・岩井沙弥・大野佳穂 観光地でのゴミのポイ捨てや落書き問題が注目されている。日本各地の自治体で法的整備が進められているにも関わらず、これらの問題には改善の兆しがみられない。本研究では、富士山と大阪城という2つの観光地に注目したアンケート調査を行い、旅行者の日常的な環境配慮に関する取り組みや意識、観光地でのポイ捨てや落書きに対する考え方を明らかにする。さらに、観光地における環境対策の重要性や、罰金制度の導入の問題解決に対する有効性について考察する。
P28	ウミガメの涙～ウミガメの放流会～ 藤原建太(総政3年;今井ゼミ)・津田爽夏 現在、日本各地でのウミガメの保護活動において子ガメの放流会が話題になっている事をご存知ですか？ 私たちのグループではなぜ放流会が問題になっているかについてフォーカスを当てて調べました。具体的には、ウミガメ保護活動の歴史をさかのぼって、何が特に問題とされたかを取り上げました。その中で放流会のいくつかの問題点と、今後目指すべき活動について発表したいと思います。日本で一番活動が盛んな日本ウミガメ協議会の活動をもとに発表の内容をまとめました。
P29	日本の廃棄物問題 有本早希(総政3年;今井ゼミ)・福田真理子 環境保護は世界で関心の高まっている事柄であり、日本国内でもエコやリサイクルという言葉をよく耳にするかと思いますが、日本の廃棄物排出量は世界でも非常に多く、その処理に際して様々な問題を抱えています。私たちは、このような日本の廃棄物問題に着目し、他国の廃棄物への取り組みや日本の活動団体を取り上げながら、日本の廃棄物問題改善に向けた提言を行います。
P30	家族間交流が主観的幸福度へ与える影響 小西璃奈(総政3年;大村ゼミ) 幸福度への影響として所得が最も注目されてきたが、他の要因として考えられる家族に着目して、「家族間交流が主観的幸福度へ与える影響」の研究を行う。本研究の問いは、「低所得者であっても、主観的幸福度が高い人がいるのはなぜか？」といったものである。そうした問いに基づき、「家族間交流の量と所得の組み合わせによって、主観的幸福度は変化する」という仮説を立てた。そして、「家族間交流」という要因により、「所得」という要因が主観的幸福度へ与える効果が変化することを調べるため、統計的手法を用いて分析を行う。
P31	食品パッケージにみる青色の考察 石川千夏(総政4年) マーケティングにおいて、色彩が人々に与える影響は非常に大きく、また、色彩は最も簡単に他社と差別化できるという点で大きな役割を担う。近年、青色を使った食品パッケージを店頭で見かけることは当たり前になった。しかし、以前は食品業界において青色を使用することは、未熟な食べ物を連想させる、食欲減退色、後退色であるとして、タブーとされてきた。本研究では、食品業界において未熟な色だとして敬遠されてきた青色が、近年なぜよく使用されるようになったのかを明らかにすることを目的とする。

自由形式 第1日(11月20日)

自由形式 1	II-104	Immigration in Japan <i>Haruka Nakajima (総政3年; Sawyerゼミ)・Airi Fujiwara・Mio Kinoshita・Nako Arai</i>
	12:00 ~ 13:00	Our group's substance is "immigration" which is the movement of people into a destination country to which they are not native or do not possess its citizenship in order to settle or reside there, Especially as permanent residents or naturalized citizens, or to take-up employment as a migrant worker or temporarily as a foreign worker. We will focus about advantageous to shift and to broaden toward naturalization that is getting Japanese citizenship and permanent residence. There are a lot of countries that have immigrants, but most of them have problems and disadvantages about it. But the other hands, it is true that some of countries treat immigrants very well and there are some advantages. So we will present about the reason why Japanese government does not have immigrants a lot and explain how strict the rule of immigration in Japan is. And also we will focus on the problems of Japanese government have about welcoming immigrants as compared with some countries. At the end, we will make the differences between the other countries clearly. Japanese government has been said the rule of immigrants is too strict than other countries, so we will find the reasons and try to think what the advantages and disadvantages for Japanese government are.
自由形式 2	II-105	「ソーシャルビジネス×国際協力」の可能性～参加型だからこそできる貧困解決のカタチ～ <i>川辺紘範(総政3年; 西野ゼミ)・築地史乃・谷口摩柚・田畑祐起・小池香菜子・原佳おる・田嶋慎也・臼井智美・坂上梨佳・今井美緒・大久保萌・村田華子</i>
	10:00 ~ 16:00	みなさんは国際協力と聞いて何をイメージしますか？ ボランティア、募金活動、そして国際機関等の大きな組織を思い浮かべるのではないのでしょうか。私たち西野ゼミは、この夏フィールドワークの一環でフィリピンの農村部を訪れ、国際協力の1つの手法である「ソーシャルビジネス」を学ぶことができました。ソーシャルビジネスとは、ビジネスを通して貧困等の社会問題を解決する方法です。今回は、プレゼンテーションを通して私たちがフィリピン現地で見てきた事例を元に、ソーシャルビジネスについて考える場を提供できればと考えております。国際協力について一緒に考えるワークショップ、写真展も行います。是非、お気軽にお立ち寄り下さい。
自由形式 3	II-107	ドイツのお部屋★ゲーテン・トーク！～環境・ひと・文化～ <i>林由貴子(総政研究員; 鎌田研究室)・上野紗恵(総政OG)・竹内宏規(総政D2)・辻田百合菜・北岡佑太・小林真洋・辻本和也・梅田朋佳(総政M1)・門楨之・赤嶺真・川野有紀(総政4年)・村上晶香(総政2年)</i>
	20日 12:00 ~ 16:00 21日 12:00 ~ 15:00	Guten Tag(こんにちは)！ 「ドイツのお部屋★ゲーテン・トーク！」は、ドイツに関心がある人やドイツ語を学んでいる人による、ドイツを様々な角度から知るための展示企画です。主に環境、ひと、文化に関するテーマを扱います。最近ではスポーツや政治等のニュースを通してドイツの名前を聞くことが多くなりましたが、ドイツとの比較の中で、日本を振り返ることもできるのではないのでしょうか？ この展示企画が、皆さんにとって何かを考えるきっかけとなれば幸いです。ドイツに興味がある人、知りたい人、ぜひ気軽に立ち寄って下さい！
自由形式 4	II-109	めざせ！ノートテイクマスター！ <i>石川智己(理工3年)・太田小百合・中村実咲・田浦優磨・山崎健吾・池田駿一郎・清水美帆(理工M1)・小笠原彩葉(総政4年)・上間友希菜・細谷純平(理工4年)</i>
	11:00 ~ 16:00	皆さんは「ノートテイク」を知っていますか？ ノートテイクとは、聴覚障がいのある学生に対して、授業の内容や音声をパソコンや手書きで伝えるボランティア活動のことです。関学では2003年から独自の体制でノートテイクを実施しています。これまでのノートテイクの歴史や、試行錯誤を繰り返して改良されてきたノートテイク体制を紹介します。聞こえない体験やノートテイク体験を通して、今まで知らなかった世界をのぞいてみませんか？

自由形式 5	II-112	阿蘇の草原～まもり・つなぐ緑の大地～ <i>河田都(総政4年)・津田美尋・能勢真人・福永真理子(総政3年)・中崎翼・大江菜々花・渡谷健太</i> 熊本県阿蘇市の壮大な草原は人の手により維持されている。日本各地の現状を知り、フィールドワークを通して自分たちのすべきことを考えることを目的としてゼミ実習が誕生し、阿蘇実習は今年で11年目を迎えた。阿蘇の草原は後継者不足・ボランティアの高齢化などにより存続の危機に瀕している。今年から新阿蘇実習と題し、新たな形態で阿蘇実習を再スタートさせることとなった。これまでの阿蘇実習の経緯を振り返るとともに、新阿蘇実習の活動内容を紹介し、阿蘇の草原の現状や魅力などを感じてほしい。
	13:00 ～ 16:00	
自由形式 6	II-205	いのちを育む「水の旅」～環境教育・集客イベントの報告～ <i>伊勢美咲(総政4年)・松田美有・藤本眞子・上田ひかる・芳田彩希(総政2年)・前田和輝・垣内ややか・辻伽名子</i> 白山麓実習プロジェクトは7年目にして大きな変革期を迎えようとしている。昨年に政策提案発表を現地で実施した『白山吉野工芸の里を拠点にした未来里地プロジェクト～吉野を灯す水の旅～』。今年度(10/29～11/3)は、その提案を環境教育＆集客イベントとして実施した。白山市は2005年に1市2町5村という広大な地域が合併されて誕生した。特に旧5村は山麓部であり、同市の平野部と比較すると人口流出と過疎化が著しく割かれる財源も減少傾向である。本発表は、白山麓の一地域にある公共施設「白山吉野工芸の里」の利用価値を見直し、白山麓の活性化を目的として実施した2つのイベントの実施・結果報告である。
	12:00 ～ 16:00	
自由形式 7	II-213	私達が考える国際協力の形～2015年度フィリピンフィールドワークでの経験を通して～ <i>山田愛(総政3年;小西ゼミ)・岩崎大地・北山智佐子・河野伸亮・真田由梨乃・白井佑季・杉上美穂子・高橋創・長谷川優衣・菱野翔一郎・本宮りの・松尾咲歩・矢野可南子・藪内麻侑子</i> ゼミ生との対話形式を中心に、今年度8月に小西ゼミ生の有志で行ったフィリピンフィールドワークでの活動を報告する。「フィールドワークでの活動」とは、国際機関の1つであるアジア開発銀行(以下ADBとする)見学、ストリートチルドレン、ごみ山の子ども達との交流を指す。活動の報告を通しADBで見たもの、フィリピンのストリートチルドレンやごみ山の現状・私達を感じたことを伝えることで聴衆に問題について考える機会を与えたい。
	10:00 ～ 16:00	
自由形式 8	II-304	Reconsidering Japan's job-hunting system in comparative perspective <i>伊藤悠太(総政3年;Sawyerゼミ)・萩原望・上別府寿樹</i> Our theme is the differences in job-hunting between Japan and some other foreign countries. The word of "job hunting" is always around Japanese university students and one of the main events of their university life. However, the job-hunting systems in some other foreign countries are substantially different. These differences deeply affect the nature of university life. By understanding these differences, Japanese students may be able improve the quality of their remaining life, and eventually contribute to improving companies and society as well.
	11:30 ～ 12:00	
自由形式 9	廊下	柏原スタジオ改修案コンペ <i>柏原スタジオ改修PJ</i> 丹波市柏原町で関西学院大学のフィールドワーク拠点としている『柏原スタジオ』の改修を検討している。柏原町は厄除けとして有名な八幡神宮や織田藩の陣屋跡もある歴史情緒のあるまちである。その町の中心部に位置する柏原スタジオをこれまで以上に開放的で活動しやすく、地域住民にも来て頂きやすい場となるような改修を提案する。応募された改修案を掲示し、見て下さった方に案の中からいいと思ったものにシールを貼って頂き、最終案決定に役立てる。
	20日 11:00 ～ 18:00 21日 9:00 ～ 15:00	

第2日(11月21日)口頭発表A会場(Ⅱ号館101教室)

9:00	離島の経済振興を考える～新潟県粟島を事例にして～ 阪上裕康(法3年)・三隅貴史(社会学研究科M1)・臼井隆(法4年) 近年「地方創生」「地方消滅」といった、地方部に対する言説が耳目を集めている。本グループではこれらについて批判的に検討しつつ、今後、いかなる手法で小規模自治体を維持していくかについて、離島自治体を事例として地域経済の振興という視点から考える。地域経済の振興を考える上で、本グループでは地域活性化マーケティング・地域ブランディングの観点を重要視する。このことで、前述の点について取り組みそのものを目的とすることなく、島の観光収入を増加させる等の具体的成果による前述の目的達成を志向する。その上で、実際に現地の人々と話し合いを行うことで、実現可能な計画に落とし込む。本発表では、離島自治体である新潟県粟島で以上を行った成果について発表を行う。
9:30	看護の仕事を考える～未来への探究～ 川上聖加(矢掛高校2年)・石宮靖子・石宮裕子・田中朱美・水川果南・百崎裕永・渡邊麻友 女子高校生にとって看護師はあこがれの職業のうちの1つである。超高齢社会を迎えた日本において、看護師はこれから高い重要度と人気を維持するであろうと考えられる。しかし、看護師の過酷な仕事の実態を報道などで耳にすることも多く、職場の人間関係に苦しむ方も多いと聞く。看護師が魅力的であこがれの職業であり続けるためには、どのような職場環境が必要なのか。今回の調査では、看護師の方へのアンケートから「やりがい」や「大変さ」の要因を分析し、年代別の理想の関わり方を提案する。
10:00	介護労働力不足は解決できるのか～介護職員処遇改善交付金・加算の政策効果の検討～ 金山考則(総政3年; 四方ゼミ)・イウンギョン・大塚菜由 介護の現場で働く人たちに対して、多くの人はマイナスのイメージを持っているように感じます。そして事実、介護労働の現場では様々な問題が存在しており、そこでの待遇の低さなどから他の職業より労働力がたりず、離職率も高いのが現状です。そんな中、政府は介護労働者の待遇改善、離職防止を目的とした制度を始めました。果たして、この制度が介護労働者の待遇や離職防止に役に立ったのでしょうか？この問題に対して計量分析を用いて分析を行いました。その結果について介護労働の実態を浮き彫りにしつつ解説したいと思います。
10:30	雑草を活かす 藤澤友希(岡山龍谷高校2年)・赤澤南咲・湛増里奈・道上歩美 研究の目的は、普段は邪魔者として扱われることの多い雑草を、日常生活に活かすことである。その反面、紙の大量消費による森林伐採が問題になっている。そこで、雑草から紙を作ることににより、雑草の処理と森林伐採という二つの問題を解決できるのではないかと考え、実験を行った。その結果、紙を作成することはできたが、かなり時間がかかってしまった。製紙会社に問い合わせをしてみても、時間や種類の選別に時間がかかり、製品としての大量生産は困難だということだった。しかし、手作りは可能であるため、その用途について思考する。
11:00	バラスト水による環境問題はどうすれば解決できるのか 中谷亮介(総政3年; 朴ゼミ)・朴昭貞 皆さんはそもそもバラスト水という言葉をご存知でしょうか？恐らくこの言葉を耳にしたことが無い方は多いかと思われます。水上で船の安定を保つのに欠かせないのがバラスト水ですが、このバラスト水に纏わる環境問題は、他の環境問題と同等に無視できないモノなのです。生態系の破壊や、経済的被害も報告されております。では、実際に「”どのような”被害が報告されているのか？」。また、それを解決するために、「”どんな”組織が、”どのように”取り組んでいるのか？」、「解決する上で、”どのような”弊害があるのか？」を明らかにしていきます。
11:30	Let's clean!! ごみZERO政策 小瀧志織(葦合高校1年)・三堂日菜子・吉本雅 「もったいない！」最近、私たち日本人はこのような気持ちを忘れてしまっている気がする。その結果、家庭からは服、おもちゃ、生ごみなどが、学校からは給食の残飯、いらなくなったプリントなどが毎日ごみとして大量に捨てられている。では、そのようなごみはいったいどのようにして処分されているのだろうか。そして私たちへどんな影響を与えているのだろうか。現在行われているごみ処理の方法を調査し、また、ごみを出さない海外での取り組みを参考に、ごみを最小限に減らし、Cleanでエコな暮らしをすることの重要性、そのような暮らしを実現するために私たちができることを、高校生の視点から考えた解決策として発表する。

第2日(11月16日)口頭発表B会場(Ⅱ号館102教室)

9:00	空き地活用～駒ヶ林水族園をつくろう～ 小西颯一(兵庫高校1年)・野間祐弥・酒井希実・廣川津喜子・泰山智花 私たちは、土地活用と地域の活性化をテーマに活動を始めました。長田区駒ヶ林町には放置されたままの土地が点在しています。私たちはそこに着目し、地域の人が交流を深められるような、すてきな空間にできないだろうかと考えました。現地へのフィールドワークを重ね、私たちは「空き地そのものをアート作品にする」という、駒ヶ林町が力を入れているアートを取り入れた提案をしました。実践活動では、空き地の石やブルーシートなどに色を塗り、「駒ヶ林水族園」を作る参加型ワークショップを開き、地域の方々に参加して頂き、アート作品に仕上げました。
9:30	まちの「味わい」分析～五感で感じる景観～ 村上峻(総政3年;客野ゼミ)・大和恵・児嶋亮祐・小野雅琴・豊田真生 多くの自治体で景観計画等が制定されているが、それらの内容は色彩分析や高さ規制など、視覚で景観をとらえた場合の対策や分析に偏っているように思われる。一方で、活気はあるが雑然とした商店街、建物のディティールや高さはバラバラで、電柱や広告が多いにも関わらず人々に愛される下町など、人は視覚的な「美しさ」とは別の尺度や感覚で景観を捉えることがある。本研究では、視覚だけでなく、五感で感じられるまち要素が人の心象に与える影響を分析することで、人が意識無意識的に感じている景観要素が与える感覚、つまり「味わい」の概念を再構築し、その価値を再認識させることを目的とする。
10:00	銭湯で外国人と交流をしよう 白松優希(兵庫高校1年)・池田有作・高木亨丞・馬場脩平・藤田花音 長田区は神戸市で銭湯が一番多くあります。その銭湯を活かして長田のまちを活性化できないかと考え、この課題に取り組んでいます。また対象を外国人にすることで、日本独特の銭湯文化を海外に知ってもらい良い機会になると考えています。調べていくうちに、銭湯はたくさんの課題があり、衰退しつつあることがわかりました。その課題に対し、高校生である私たちに出来ることは何かを考えました。私たちは、身近な外国人であるALTの先生方を集めて銭湯を紹介し、実際に入湯してもらったあと、外国人が利用しやすい銭湯とは何かについてワークショップを企画することになりました。
10:30	社会の大衆化と大学生のアイデンティティの喪失 山内里奈(総政1年)・馬淵奈々子・阿部百華・百合野郁花・松浦楓・久保夏未・光田稀一・長谷光祐・呂家良・中沢奎慧 現在、日本の大学生は、欲望によって行動する傾向が強い。この原因の一つは、社会の大衆化が進み、自ら進んで努力する大学生としてのアイデンティティが失われていることにある。本来、アイデンティティは、自己と他者との相互の関係を配慮する中で育まれる意識である。しかし、社会の大衆化により、社会全体を見る視野が失われ、指導力、管理能力を備えた人が減少している。現代の大学生のアイデンティティの喪失と大衆化の関係を考察することを通して、大学が日本の未来を担う人材の育成の場であるための条件を考察・提案する。
11:00	大学生の食生活の乱れ～曖昧な選択から脱する方法の提案～ 和田麻里(総政4年) 現在の日本は、好きなものを好きな時間に買って食べられる環境がある。それだけ選択肢に恵まれ体に良いとされるものを選ぶが、体にあまりよくないと思っても曖昧な食に関する知識と理由で選択し購入することは多い。“なんとなく”の判断を回避するためにも、大学生が「楽さ」や「栄養バランス」といった基準と食に関する知識を持ち合わせて選択する、能動的な実践態度を高める方法を考えたい。
11:30	大学生におけるスマートフォン依存と心理ストレスとの関係 山川華穂(総政4年;伊佐田ゼミ) 現在、大学生の約98%がスマートフォンを利用している。スマートフォンには心理ストレスの発散に繋がる点や原因となる点があることに着目し、スマートフォン依存と心理ストレスとの関係の調査を行った。先行研究では、スマートフォンが現在のように普及していない時期であることや、スマートフォンの依存に対しての定義にばらつきがあることが言える。そこで、スマートフォンが約98%普及している現在のスマートフォン依存と心理ストレスとの関係を様々な視点から調査し、より快適なスマートフォン利用を目指し、提案を行う。

第2日(11月21日)口頭発表C会場(Ⅱ号館111教室)

9:00	言葉の壁≠生存の壁 ～震災時に外国人が混乱しないために～ <i>村田薫音(御影高校2年)・岩田萌花・河原明日菜・小林叶</i> 私たちの御影高校がある神戸には昔から沢山の外国人が住んでいます。20年前にここで震災があったときは、防災の知識や地域の人との交流が少なかったため、外国人にとって命や生活を守るとはとても困難なことでした。私たちはこの問題に興味をもって調べていきました。すると、今もまだその原因が残っていると分かりました。私たちは、再び震災が神戸に起こっても、外国人が困らないようにするために必要なことを提案します。
9:30	自尊感情の向上を目指す理想の教育～多世代との関わりから見えた高校生の可能性～ <i>原子真祐(法4年)・西村大地(高校3年)・矢野湖々</i> 日本の若者は自尊感情が低い、と言われて久しい。この問題については多方面から研究が行われ、その原因として教育環境や社会の分断を挙げるものも少なくない。伊丹市立伊丹高校では、十年以上前からこの問題の解決を目指し、高校生が企画者となり、社会をつなぐ授業を実施している。それは教科「情報」で、高校生と地域の人々がともに学びあう「共育」を実現している。本研究は其中で、高校生が中学生と高齢者を橋渡しする「聞き書きプロジェクト」の効果を検証し、若者の自尊感情の向上と自己確立のために必要とされる教育のあり方について考察する。
10:00	トライやる・ウィーク＝職業体験？～地域密着型の学校を目指して～ <i>坂口杏奈(御影高校2年)・梶山純花・中山彩乃・五島希実</i> トライやる・ウィークは平成10年から兵庫県で始まった体験活動です。トライやる・ウィークの名称には「挑戦する＝トライ」とともに、「学校・家庭・地域の三者の繋がりが＝トライアングル」の意味が込められています。しかし現実には、この三者や生徒の中で、トライやる・ウィークに対する意識にギャップがあることがわかりました。私たちも中学生の時、「トライやる・ウィーク」は「職業体験」活動であると信じて疑わなかったですが、実際は違いました。私たちはトライやる・ウィークの本当の目的を知ることの重要性を発信します。
10:30	なぜ高校中退率は低下したのか <i>吉田裕佳(総政3年・四方ゼミ)・神谷ひかる・藤村健悟・横山瑞穂</i> 今日の日本社会では、就職する際に学歴が重視される。現在、高等学校への進学率は97%を超えており、高等学校は実質的に義務教育化しているといえる。このような社会の中、高校中退率は平成13年以降低下し続けている。中退率を低下させた要因は何か。これを単純に良い変化として認識してよいのだろうか。定時制・通信制高校の在学者数、学校制度、経済状況の変化に着目し、高校中退率を低下させた要因についていくつかの仮説を立てて分析する。
11:00	防災グッズ～100円ショップで一工夫～ <i>荒木ひなの(岡山龍谷高校2年)・永本京花</i> 災害という名の恐怖は突然私達に襲いかかってくる。どれほどの人が災害に備えて非常用持ち出し袋を用意しているのだろうか。私たちは災害への備えの大切さをもっと理解する必要がある。海外でも驚かれるほど発達した100円ショップを、防災グッズとしても有効活用していきたいと思う。私たちは災害から起こる停電に目をつけ、“あるもの”を手放すことのできないほど大きな存在にすることに成功した。そこで私達は非常用持ち出し袋という、限られた中で100円ショップの商品によって一工夫した、とてつもなく明るい“あるもの”を提案する。

第2日(11月21日)口頭発表D会場(Ⅱ号館201教室)

9:00	私たちの家族と戦後史観論争 浅井良紀(総政3年・柴山ゼミ)・山本久瑠実・植田愛育・安藤義之・村角萌奈 戦後70年を迎える2015年、安倍政権による安保改正が決議されたことに際して、知識人による戦後史観に関する著書が数多く出版されており、それを目にした私達読者もその著書を元に日本の戦後史観について議論をしている。しかし多くの著者、またその読者は自らの戦中からの家族の歴史を顧みることをせず、日本全体の戦後史観を議論している。私たちは自らの歴史なしに、日本全体の戦後史観を議論できないと考えた。最近話題になっている内田-白井論争でも、彼らの家族の歴史すら顧みていない。つまり論争自体に危うさがあり、これでは日本の生きる道が地に足着いていないと言われても仕方ないのではないか。そこで本発表では、知識人による戦後史観の論争を、私達の家族の歴史を用いて検討し、あるべき戦後史観を追求し、今の日本をどう捉えるかを考察する。
9:30	NEW EDUCATION FOR JAPAN～フィンランドから学ぶこれからの日本の教育～ 丸田葵(葦合高校1年)・西浦真理子・原田萌 フィンランドでは2016年よりグローバル化に対応すべく、教育改革が行われる。日本は今、PISA(OECDによる生徒の学習到達度調査)において上位にいるが、教育に対する満足度(OECDによるBetter Life Index教育部門)はそれほど高くはない。一方、フィンランドはPISAの順位は降下気味なものの、満足度は世界一位だという結果にも注目した。そこで、フィンランドの教育改革を分析し、参考にすることによって、同じくグローバル社会に対応する教育に力を入れようとしている日本がフィンランドから学べる事が多々あるのではないかと考えた。それを高校生の立場から提言する。
10:00	どうなる？今後の世界～アメリカの意地か中国の執念か～ 薮野香織(総政3年・小池ゼミ)・日下稚菜・吉尾友里・白羽幸・荻原有里 2015年9月25日、アメリカ合衆国(以下、アメリカ)、ワシントンで米中首脳会談が行われた。そこで、中華人民共和国(以下、中国)は以前から唱えている「新大国関係」を改めて主張した。これはアメリカと中国が互いに尊重・協力しあうことで世界を牽引しようとするものであり、G2論として注目されている。一方この中国の動きに対して、アメリカは懸念を示し、応じる兆しは見えない。しかし、近年急成長を遂げている中国は、世界での存在感を強めており、アメリカも中国を視野に入れざるを得ない。そこで私たちは、アメリカと中国の二極体制が成り立つのかどうか検証する。
10:30	アメリカ合衆国大統領選挙勝利の条件～アメリカ合衆国のリーダーに求められるものとは～ バナジー・ジョティ・千歳・サラフィーナ(総政3年・小池ゼミ)・納茜・阿佐真登華 2016年11月8日、アメリカ合衆国大統領選挙が予定されている中、2期に渡って大統領を務めたバラク・オバマは出馬することが認められない。したがって来年、アメリカに新しいリーダーが誕生する。現在、初の女性大統領誕生を期待させるヒラリー・クリントン、ヒスパニック系候補者など、次のアメリカ合衆国のリーダーに、より多様化された社会を念頭に動くであろう候補者が名を挙げている。アメリカ大統領に求められるものは何か。それはマイノリティを視野に入れることだけではない。過去の大統領選挙や世論調査を元に、アメリカ合衆国大統領選挙勝利の条件を提示する。
11:00	宇宙開発の危険性 矢野亨枝(総政1年)・溝口玲衣・芳尾遥花・川口里奈・上野利恵・竹内淳・山下佳純・廣岡優・前田樹 先進国による宇宙開発は国家間の格差増大の象徴といえる。国際的格差を解決するには先進国による途上国への教育や食料支援のための投資が必要だが、両者にとって成果が出る確実性はない。他方、先進国が宇宙開発に投資した場合、その国の産業の発達を促し一定の利益が見込まれる。多大な経済力と技術力が必要な宇宙開発が活発になると、それらを持たない途上国と先進国との国際的格差がさらに広がることは必然である。よって宇宙開発が生む不利益を検討することは、人と宇宙との関わりを再検討するために重要な論点である。

第2日(11月21日)口頭発表E会場(Ⅱ号館204教室)

9:00	ポイント制の導入による教育システムのビジネスモデルの構築～ポイント制教育アプリの可能性～ 王碩(総政M2) 2020年、東京オリンピック開催をきっかけとして、全ての学校に、タブレットを導入する政策が決定した。タブレットの利用者がますます増えるとともに、とりわけ、教育分野で、タブレットの飛躍が期待されると考えている。タブレットとスマホを含め、スマートデバイスの時代の到来を察知し、スマートデバイスでの教育ビジネスモデルについて研究している。研究としては、教育分野で、アプリ内課金、アプリ内広告以外に、新たな可能性として、アプリ内でのEマネーポイントグループの活用の可能性を証明したいと考えている。
9:30	事務処理組織におけるインフォーマル・グループのはたらき～BPO運用を事例として～ 三谷泉(総政D1) そのメンバー間の人間関係をもとに自然発生するインフォーマル・グループ。企業や官庁のみならず、学校における学級、病院における医師・看護師・患者の連携などあらゆる公式的組織の中に存在し、影響を与えている。その発見の経緯を確認し、経営学史における位置づけの変遷を俯瞰し、組織マネジメント上の意味を探る。あわせて、発表者の実務経験を踏まえ、企業の事務処理組織におけるインフォーマル・グループの顕現、それに対するマネジメントの対応、パフォーマンスへの影響等の事例についての報告も予定している。
10:00	中国保定市における環境配慮型都市建設 葛亮亮(総政M1) 近年、中国の華北地方を中心に多くの都市がPM2.5による大気汚染問題が起きている。市民の日常生活に問題をもたらし、さらに健康被害が拡大することが懸念されている。環境汚染への対応が迫られている、どのようにして環境問題を解決するべきか。本研究の目的は保定市を事例として、これまでの政策や取組を説明し、環境配慮型の都市建設に有効な対策を探ることとする。
10:30	ニューラルネットワークを用いた企業倒産の予測可能性に関する考察 水谷香奈子(総政3年・古川ゼミ)・眞鍋周平・磯野みなみ・水谷香奈子・田中良典・黒田和希 近年、スカイマークを始め、複数の大企業が経営破綻している。私たちが就職先を選定する際には、企業の長期安定性が重要な判断基準の1つとなる。そこで私たちは、ニューラルネットワークを用いた企業の倒産予測分析を行う。ニューラルネットワークとは、脳の機能特性を計算機上のシミュレーションで表現することを目指した数学モデルである。かつての倒産予測分析は、財務要因のみの指標で分析する特徴が挙げられる。しかし、財務要因にマクロ経済変数等の非財務要因を加えて分析することで、より正確性の高い倒産予測分析を実現した。
11:00	日本と台湾のファッション比較 林裕也(総政3年・伊佐田ゼミ)・柳瀬梨甫・倉橋葵 長引くデフレに悩まされる日本では、食料品や生活必需品とは違う不要不急の衣類は、最も売りにくく、単に安くても売れないものである。しかし、台湾では、日本の雑誌の人気はとて高く、世界の有名ブランドも積極的に台湾進出を進めている。このような時代だからこそ、何を重視して衣類を購入しているのか。またどのようにして情報を集めているのか、情報化社会だからこそその現状についてもあわせて考える。アンケート調査を実施・分析し、海外でも受け入れられる販売戦略、効果的なプロモーション戦略についての提案をしていく。
11:30	故郷「村雲」のまちづくり・地域活性化 友近七海(北摂三田高校2年)・笹田真緒・前岡信乃・山崎留香 本研究は、過疎化を課題とする地域に焦点を当て、課題解決のために、分析や実践を通してよりよい地域活性化の方法を提案することが目的である。まず、「まちづくり」を「地域住民による自律的かつ継続的な環境改善運動」とし、「地域活性化」を「地域が経済や人口、産業などの点で向上や増加するための持続可能な状態になること」と定義した。この定義に基づき、本稿では、地域における現状を把握する手法『SWOT分析』についてまとめ、実際にその手法を用いて分析した地域の現状から、まちづくり・地域活性化のための提案を行った。

総合政策学部卒業生同窓会企画「アポなしOBOG訪問企画」 11/21 SAT

@アカデミックコモンズ1F・2F

総合政策学部 同窓会は毎年リサーチフェアにて、卒業生と在学生の交流イベントを開催。

今年もたくさんの卒業生がボランティアとして三田に集います。

在学生の皆さんは、座談会形式で気軽にOBOG訪問ができるチャンスです！

社会人としての経験、就職後に訪れた仕事上・生活上のハードル、それらをどのように乗り越えてきたか、就活で苦労した事など、様々なご質問にお答えします。

貴重なこの機会に、是非皆さんでご参加ください。

開催日時	開催場所
11月21日(土) 13:00～15:20 (計3回)	アカデミックコモンズ 1F／2F (バスロータリー、体育館横)
第1回目 13:00～13:40	
第2回目 13:50～14:30	
第3回目 14:40～15:20	

会場案内：開催ブース名紹介

クリエイティブスクエア(2F)

13:採用担当者の見てるトコ

14:広告業界でのキャリアパス

シアター(1F)

15:国際協力で生きる

16:「好き」を仕事にする

17:大工と庭師～総政的建築デザイン

アクティブラーニングゾーン(1F)

オレンジゾーン

8:IT企業の企画とコンサル営業

9:地方公務員のお仕事

10:女性のライフ＆ワーク

11:フリーランスで生きる

12:サークル活動・就活に役立つマーケティング

グリーンゾーン

1:マスコミのお仕事

2:私が起業した理由

3:学校の先生

4:メーカーのお仕事

5:社会人1～3年目

6:会社に頼らない生き方

7:大学院で学ぶ／院卒就活

各ブースの参加企業／団体／所属一覧

- 1: マスコミのお仕事 → 外資系通信社、■■放送、■■新聞社
- 2: 私が起業した理由 → 特定非営利活動法人■■■■、(株)■■■■■、■■■■■(株)
- 3: 学校の先生 → 大阪府内 中学・高校数学科教員
- 4: メーカーのお仕事 → ■■■■食品インターナショナル(株)、■■■■(株)、■■■■工業(株)
- 5: 社会人1～3年目 → (株)■■■■■、(株)■■■■■、■■■■不動産(株)
- 6: 会社に頼らない生き方 → M電機(株)
- 7: 大学院で学ぶ、院卒就活 → ■■■■大学 大学院 国際協力研究科
- 8: IT企業の企画とコンサル営業 → (株)■■■■■、(株)■■■■■アプリケーションズ
- 9: 地方公務員のお仕事 → 地元の市役所、■■県庁
- 10: 女性のライフ＆ワーク → (株)■■■■リクルートメント、■■印刷(株)
- 11: フリーランスで生きる → フォトジャーナリスト
- 12: サークル活動・就活に役立つマーケティング → ■■■■(株)
- 13: 採用担当者の見てるトコ → (株)■■放送、有限責任監査法人■■■■■、(株)■■■■■
- 14: 広告業界でのキャリアパス → ■■■■
- 15: 国際協力で生きる → 独立行政法人■■■■■、■■■■■(株)、(株)■■■■■
- 16: 「好き」を仕事にする → (株)■■■■■
- 17: 大工と庭師～総政的建築デザイン → 庭師■■■、■■建築

会場 場所

ブース名

番号	チューター名 卒業年・ゼミ 所属 職種	学生時代から現在までの経歴	現役学生の皆さんへのメッセージ
----	------------------------------	---------------	-----------------

会場 アクティブラーニングゾーン(1F、グリーンゾーン)

ブース名 1: マスコミのお仕事

1	Y. N 2000年度、2001 年3月卒 陣内ゼミ 外資系通信社 記者	小学生の頃から運動部記者志望で、学生時代は新聞社のインターンシップに参加したほか、新聞社の論説委員が講師の作文教室にも2年間通った。進級論文と卒業論文も記者の仕事につながるテーマを選び、執筆に励んだ。しかし、希望の分野の記者職には就けず、新卒で学校法人関西学院に就職。大学に4年間勤務した後、27歳の時に新聞社で職を得て、37歳の時に外資系通信社に転職した。	1、どうしてもマスコミに就職したい人 2、諦めなければ道は開けると伝えたい 3、大学・学部での勉強。
2	■■■■ 2000年度 二ノミヤゼミ ■■■放送 テレビ営業	フィリピンでのストリートチルドレンの施設、ゴミ山での研修、体験を通じて映像で現状を伝えたいと思いテレビ報道の道へ。しかし、入社後の配属は東京支社のラジオ営業、腐らずに務め3年後にテレビ報道で記者に。大阪府警、府庁(橋下番)、京都支局、神戸支局キャップを担当。9年間の報道を経てテレビ営業局に異動。テレビ番組のセールスだけでなくクライアントニーズにあった番組の立ち上げ等を行っています。	(1)放送局で働く人の必須条件の一つに”好奇心”があると思います。何でも貪欲に知りたい！と思う人に来て頂きたいです。 (2)テレビの仕事は放送が終わるとまた次の放送に向けて準備をする、終わりの無い仕事です。でもめちゃくちゃ楽しいです。何が楽しいのかお伝えしたいです。 (3)学生の特権を生かして”動きながら考え、考えながら動く”を実践してみてもいいでしょう
3	■■■■■ 2005年 鎌田ゼミ ■■■新聞社 記者	1年間の米国留学後、鎌田ゼミ入りし、哲学に人生を重ね打ち込みました。05年に入社後、横浜支局5年、東京社会部3年、現在は大阪社会部3年目。事件・事故と自然災害が私のフィールドです。今は大阪府警で汚職などの知能犯と暴力団を担当しています。現場に出る機会が多く、昨年はこのイベントをドタキャンしてしまいました。今年は平穩であることを願っています。	記者職に少しでも興味がある人、気軽に来て頂ければ嬉しいです。この10年余でやってきた仕事のほか、業界の内情についてもある程度、お話できると思います。学生時代には、たくさん本を読んでください。真剣に考えて、やりたい事、やるべき事を一生懸命やってください。

会場 アクティブラーニングゾーン(1F、グリーンゾーン)

ブース名 2: 私が起業した理由

4	■■■■■ 1999年度卒(2期生) 渡部律子ゼミ 特定非営利活動法人 ■■■■■ 代表理事	大学在学中に、ボランティアサークルSSVの活動を通して障害者支援に興味を持つ。大学院在学中にNPO法人設立。「福祉の問題はまちづくりにあり」という考えの下で、ビジネス手法を用いて地域課題の解決を目指す。現在、10本以上の事業を展開し、スタッフ数は80名を超える。具体的な事業は、訪問介護事業、デイサービス事業、短期入所事業、職業訓練事業(農業事業・食品加工事業)、就労支援事業、相談支援事業、家庭教師事業、水泳教室事業、不動産管理事業など。	「起業したい」、または「世の中を変えたい」という思いを持っている学生に、実際の起業体験をふまえ、「実業家(起業家)」という職業とは? 「世の中を変える手法とは?」というような話をさせていただきます。学生の間には、社会で起こっていることに関心を持ち、自分なりの関わり方を模索してほしいと思います。
5	■■■■■ 2004年度 古川ゼミ (株)■■■■■ ITサービス	学生時代はクラブジョーディーで事務局長、SCSにて『ゼミ選び』や『留学』や『インターンシップ』のマッチングイベントなど、今まで無かった企画を仲間を募って実行するという経験をしました。卒業後は(株)リクルートスタッフィングにて3年営業し、その後1年放浪、起業のために1年半HP制作会社にて修行し、会社を設立しました。4年目にメディア事業を上場企業に売却。2013年12月より新会社にて貸会議室の検索サイト「space.jp」を運営しています。	大学という性質上もあり、課題解決という物の見方を身につけがちですが、課題解決ではマイナスをゼロに近づけるまでしかできません。また全ての生命が一生懸命に生きている以上、どこにも問題は存在しないように思います。それより『機会を見つける』物の見の方が役に立ちますし、金持ちにもなれます。今まで誰も想像してなかった状態にみんなを導いていける、その機会だけが胸(もしくは頭)の中に存在すると思います。

ブース名		2:私が起業した理由(つづき)
6	■■■■■ 2003年度 古川ゼミ ■■■■■(株) 代表取締役	2003年に総合政策学部卒業後、コンサルティング会社に就職。 入社2年目でトップセールスとなる。 その後、新規事業立ち上げに携わった後、2009年に独立し、リレーションズ(株)を創業。 「b++(ビープラス)/ マイナスがプラスになる瞬間を創り続ける」をビジョンに購買コンサルティング事業 Less is plusや自由に自転車の貸出・返却ができる OGOO(コグー)、無料無料のクリエイターズシェアハウスTOLABLなどユニークな事業を立ち上げている。 キーワード ①スタートアップ ②インキュベーション ③イノベーション ④ビジネス開発 ⑤社会問題解決

会場 アクティブラーニングゾーン(1F、グリーンゾーン)

ブース名		3:学校の先生
7	■■■■■ 2000年3月 中條ゼミ 大阪府内 中学・高校数学科 教員	大学3年生のとき、教育業界を中心に就職活動をし、数学の塾講師として内定を得る。並行して教職の授業を履修する中で徐々に教員になりたいという希望を持つようになり教員免許状の取得を始める。ところが総合政策学部では数学科の免許が取得できず、大学院へ進学。就職がきまると同時に数学科の教員免許状が取得でき、現在教員14年目になります。 (1)現在教職を目指している人、教員になって大丈夫か不安な人、または教職を取ろうかどうかその事に迷っている人等、教職に関する事に関心がある人なら誰でも。また教育業界への就職を考えている人も歓迎します。(2)実際の教員の仕事あれこれ。(3)色々な事を数多く経験すること。教員志望者に言えることは自分がなろうとしている教科の勉強。

会場 アクティブラーニングゾーン(1F、グリーンゾーン)

ブース名		4:メーカーのお仕事
8	■■■■■ 2011年卒 Mark・Sawyerゼミ ■■■■■食品インターナショナル(株) 営業企画	サッカーとフットサルに没頭の毎日。 英語オンリーのゼミに所属したが、留学で思った以上に成長せず、大苦戦。 ■■■■■フーズ(現■■■■■食品インターナショナル)に就職。 1年目～4年目までは新潟で営業。 今年の春に関東支社に異動となり、営業企画を担当。 素直で目標に向かい挑戦・努力し続ける人に来てもらいたいです。 就職活動で非常に苦労したので、その経験談を話したいです。 学生生活では今しか経験できないことを積極的に行って欲しいです。
9	甲斐 康裕 2009年卒業 今泉ゼミ ■■■■■電気(株) 営業(官公庁担当)	大学時代は今泉ゼミに所属し、アメリカ文化・歴史・政治等を学びながら、フットサルサークルの「LEAF」に所属していました。大学の外では、高校時代(1年間)にYFUという団体を通じてアメリカ・ミシガン州へ交換留学した経験を元に、ボランティア活動をして充実した毎日を過ごしました。 ■■■■■に入社して早くも7年目。現在は、東京で官公庁(主に総務省・経産省)を担当する営業として、最先端のICTを活用した社会ソリューションを日本国内だけではなく全世界に提案することにより、“人が生きる、豊かに生きる”ための社会価値創造を目指して日々精進しています。 (1)「メーカー、営業、ICT、グローバル、留学、国際交流」などのキーワードに少しでも興味ある方、ワイワイ楽しく笑顔で話したい方 (2)就職活動の失敗談／学生時代と社会人時代の大きな違い (3)やりたいことを沢山探して、何事も実行してみてください。(個人的に心残りは海外旅行をもっとしておくべきでした・・・)
10	■■■■■ 2011年卒業 Sawyerゼミ ■■■■■工業(株) 医療用医薬品 営業 (MR)	関学中学部、高等部でサッカーをやっていて、大学時代はフットサルサークルL.E.A.Fで活躍！？ Sawyerゼミでは中高英語教員免許取得しながら早期英語教育について学びました。卒業後、新卒で■■■■■工業(株)に入社し現在5年目 現在埼玉県で医薬情報担当者(MR)5年目、医療用医薬品の営業をしています。 通常の営業スタイルとは少し違ったMRのやりがいも含めて社会人に対する疑問、就職活動に対する不安が少しでも解決出来ればと思っております。 気軽にお越しください！

会場 アクティブラーニングゾーン(1F、グリーンゾーン)

ブース名 5:社会人1～3年目		
11	■■■■■ 山田ゼミ・ 建築士P (H26) ■■■■■不動産(株) ビルの運営・企画	ゼミ・建築士P・『表現』等にて3号館と旧食を往復する毎日でした。暇があれば旅行していたので社会に出れるか不安でしたが、現在なんとか入社二年目です。サークルは都市研に拾って貰いました。
12	■■■■■ 2015年 小西ゼミ (株) ■■■■■ 営業	Global Social ResponsibilityとWITH caféの活動に力を注いでいました。Global Social Responsibilityの活動は、小池先生にお誘い頂いたのがきっかけで、参加企業2社を組み合わせた事業提案を行いました。また、WITH caféではアカデミックコモンズを活用し、world caféというディスカッションの手法を用いて、月に1度イベントを開催していました。社会人1年目。今は人材会社にて大阪で新規飛び込み営業の日々を送っています。
13	■■■■■ 2013年 Mark.Sawyerゼミ (株) ■■■■■ コンサルタント	《大学在学中》・基礎ゼミ: 柴山ゼミ・3,4年: ソーヤーゼミ・学業成績 学部TOP10受賞・議員秘書のインターンシップ参加・英語中期留学参加(2010年秋学期)・大阪市学習指導員ボランティア・市立伊丹高校土曜日英語講師・AIESEC海外インターンシップ@ポーランド参加・長期休暇中はほぼ海外に…(学生時代に訪れた国: カナダ・アメリカ・メキシコ・チリ・韓国・台湾・インドネシア・タイ・ベトナム・オーストラリア・インド・ポーランド・ドイツ・フランス・イタリア・フィンランド)・アルバイト(塾講師・家庭教師・水泳インストラクター・カフェ店員・海遊館スタッフ・アパレルスタッフ) 《大学卒業後》・新卒で経営コンサルティング会社、(株)■■■■■に入社・1年目: 大手インフラ系企業を中心に、企業の組織変革のための教育・研修事業に携わる・2年目以降: 中小ベンチャー企業をターゲットに、理念風土教育採用、組織人事領域のワンストップコンサルティング事業部で、コンサルタントとして奮闘中

会場 アクティブラーニングゾーン(1F、グリーンゾーン)

ブース名 6:会社に頼らない生き方		
14	■■■■■ O4、陣内 M電機 技術事務	大学院進学後、外資系P社4年→日系H電機の販社4年→日系D工業8ヶ月→10月からM電機
		(1)暇と体力があればどうぞ。(2)今後の日本社会で起こるであろう労働環境とそれに対する対処法(対処できるか否かはしらんけど)、いまから語学と投資をやっておくといいかも?というハナシ。(3)今やるべきことは、自分の中で「今でしょ」を探してください。僕からは、「何かおかしい」という感覚を磨いてください。例:西宮市上ヶ原にある某大学の学祭に前科2.5犯(正確には2犯)の芸人崩れの元政治家を招いてトークショーを行う予定です。関学の品格や名譽を考えると、(以下自粛)

会場 アクティブラーニングゾーン(1F、グリーンゾーン)

ブース名 7:大学院で学ぶ/院卒就活		
15	■■■■■ 2014年 柴山ゼミ ■■■■■大学院 国際協力研究科 大学院生	【関学】大学3年生から4年生にかけて米国ジョージア大学に1年間留学し、冬休みを利用して、コーヒーで有名なグアテマラ共和国に3週間滞在しました。スペイン語を学びつつも、途上国の貧困問題を肌で実感し、大学院で社会保障問題を研究することを志しました。【■■■大】社会保障問題の研究に取り組みつつも、1年生からインターンシップに参加してビジネスの面白さを実感し、民間企業へ就職することになりました。
		[1] 留学に興味がある人や大学院への進学を考えている人、就職活動について知りたい人は是非来て下さい! [2] 留学生活での失敗談や思い出、文系大学院生の研究生生活や就職活動をお伝えしたいです。[3] とにかく自分の可能性を広げて下さい。色んな人に出会って、色んな本を読んで、自分が走りたい道をたくさん描けるようにして下さい。

会場 アクティブラーニングゾーン(1F、オレンジゾーン)

ブース名		8:IT企業の企画とコンサル営業
16	■■■■■ 2013年度卒業 西本ゼミ ■■■■■(株) マーケティングソリューションカンパニーエリア オンライン営業本部営業企画部新規事業開発 企画	■学生時代はスポーツと学業に励みました。野球とテニスを毎週学内外の友人とプレーしていました。また大学2年生までに全て単位を取り終え、残りの2年で予備校にいき国家公務員総合職の資格を取りました。興味のあった国連セミナー(ニューヨーク研修)にも参加しました。 ■■■■■に入社し3年目ですが、当初より企画の仕事に就き、インターネット広告・海外事業・学生インターンシップなどの企画と運営をしています。 ■特にこんな人に来てもらいたいです「就活を迎える3年生」「インターネットまたは海外での仕事に興味強い人」■こんな話をする予定です「学生時代にしておくべき3つのこと」「あると役立つ知識と経験」「どんな人が■■■■■で活躍しているか」「海外事業のこと(■■■■■は海外でも働けます)」「今後の会社・事業の展望(言える範囲で)」「自己分析・企業研究の上手な進め方(就活生の方が来ればお話しします)」■今学生の皆さんは、ぜひ今熱中していることを楽しんで下さい！もしくは熱中できることを見つけて下さい！中々見つからない人は、私のブースに来て話を聞いてみて下さい。きっとヒントが見つかります。
17	■■■■■ 2011年度卒業 古川ゼミ(※) (株)■■■■■ 営業 (法人向け・新規開拓)	【キーワード】学生時代のイメージと現実、仕事に求めること、コンサルティング営業(法人営業)、IT業界 社会人としてなりたい自分(職種・仕事内容・成果・プライベート等)と現実のギャップに悩みもがいてきた経験を踏まえ、社会人になる前に考えておいてほしいことをお話しできればと思います。就職活動の軸や残りの学生生活の過ごし方に悩みがある人に、少しでもヒントになれば幸いです。コンサルティング営業(法人営業)のエッセンスも交えてお話しするので、仕事内容に興味がある人も是非。 関学高等部卒。大学1～2年次は鎌田ゼミでの活動、カナダへの英語中期留学、各種キャリアプログラムの活動等に打ち込む。3年次に現ワークスアプリケーションズのインターンシップに参画し、内定獲得。その後他社の就職活動も進める中、東日本大震災の発生を受け、復興ボランティア団体「三田支援ネット」を立ち上げ活動。ゼミでは古川先生のもとで経営学を学び、リサーチフェア、卒業論文に取り組む。卒業後は現在の会社にて新規開拓営業を担当し、どん底の経験を経て、昨年度のチームMVPを受賞。現在入社4年目。 ※所属ゼミについて：正式な所属は尾藤ゼミですが、通常は古川ゼミ聴講生としてゼミに参加。リサーチフェアや論文も古川先生のご指導のもと経営学をテーマに進めました。

会場 アクティブラーニングゾーン(1F、オレンジゾーン)

ブース名		9:地方公務員のお仕事
20	■■■■■ 1999年 片寄ゼミ ■■■■■県庁 一般事務職	大学時代はゼミで商店街振興や都市政策を学習。卒業後は、信託銀行において主に不動産部門に所属。5年間勤めた後、Uターン採用で■■■■■県庁に転職。カルチャータウンやフラワータウンの土地の売却に携わったり、いくつかの部署を経験しながら、現在は若者や女性の就業支援や、首都圏から兵庫県に人材を還流させる業務に就いています。 一般的に、公務員は安泰というイメージがありますが、そういったイメージを持ったままではこれからの時代はやっていけません。堅実さは重要ですが、チャレンジ精神をもってください。総合政策の分野は、自治体の政策立案にはきっと役立つと思います。私は、幸運にも民間と行政の両方の経験を持っていますので、両方の良さも交えながらいろいろとお話できればと思います。
18	■■■■■ 2009年度 窪田ゼミ 地元の市役所 事務職員	①公務員を目指している人(特に市役所に興味を持つ人)②地方で活躍したい人③進路に悩んでいる人などなど、どんな学生でもウェルカム。学生から社会人になるまでの経験から得たことをお伝えできればいいなと思っています。凝り固まらず柔軟な姿勢で様々なことにトライし、自分自身を磨き上げて下さい。そして一生付き合える仲間を見つけてください。 学生時代はノートテイク・字幕付け等の障がい学生支援と政策・情報学生交流会の企画・運営、SR(キャリアセンターの就職支援活動)など、人のために自分が出来る事をモットーにいろいろな所に関わりました。卒業後はクレジットカード会社に入社し2年間働きました。東日本大震災を経て市役所への転職を決意し、仕事を続けながら公務員試験を勉強し、合格。今では地元の市役所4年目。公的保険と医療費助成事業を担当しています。
19	■■■■■ 2012年度 朴ゼミ 地元の市役所 事務職員	(1)地元の企業・市役所で活躍したい人 (2)民間企業と公務員の違い (3)学生生活を思いっきり楽しむこと！ 学生時代はテニスサークルや地元のフットサルチームに所属して、好きなこととことん打ち込む毎日を過ごしていました。卒業後は地元の信用金庫に入庫し、預金係窓口業務を担当していました。2年間勤める中で、より地元に着いた仕事をしていきたいと感じ、転職を決意しました。地元の市役所へ転職して1年目です。現在は収納対策課という部署で税金の支払いの遅れ等の収納整理を担当しています。

会場 アクティブラーニングゾーン(1F、オレンジゾーン)

ブース名 10:女性のライフ&ワーク			
21	■■■■■ 2002年修士修了 福田ゼミ (株)■■■■■リクルー トメント 関西学院大学専門職 大学院経営戦略研究 科科目履修生 コンサルタント	一期生学部入学→3年次に休学、エジプト留学→二期生で修士修了。基礎ゼミは鈴木實ゼミ、3年から福田豊生ゼミ所属。トレッキングサークルに所属、長期休暇はほぼ中東各国へ。学部4年間はひたすら勉強、ひたすら友人たちや教授たちと語り倒す。卒業後約12年間は自分のやりたいをひたすら追求(研究職志望→横道に逸れてキャンギャルやモデル、人事部→人事系コンサル→病み病みどん底期→カウンセラー→介護職員)。現在は天職(?)の人材紹介コンサルタントとして活躍中。	今何に頑張ればいいのかの、将来自分は何ができるのだろうと悩んだり迷っている方に来て欲しいです。やりたいことをやることの責任と楽しさ、女性としての幸せとビジネスパーソンとしての幸せの両立、私自身の経験談を交えながら「何があっても人生なんとかなる!だからしたいことに挑戦する!」ってことを楽しくお伝えできればと願っています。学生時代はとにかく勉強して、海外に行って、たくさん人に出会って、いい言葉に出会って、何事にも恐れず挑戦すること。それができれば必ず幸せになります!
22	■■■■■ 2012年卒業 小西ゼミ ■■■■■印刷(株) 営業	学生時代には一年間、カナダのトロント大学で交換留学を経験しました。 帰国後は小西ゼミに所属しフィリピンフィールドワークへ打ち込みました。 卒業後は現在勤めている■■■■■印刷へ入社。 営業4年目です。	営業って?留学の経験ってどう活かされる?女性の総合職って? そんな人はぜひ来てください! 若手の女性営業として、日々の奮闘や失敗談、心掛けていること、お話できればと思います。

会場 アクティブラーニングゾーン(1F、オレンジゾーン)

ブース名 11:フリーランスで生きる			
23	■■■■■ 2014年度卒 小池ゼミ 無所属(個人事業) フォト・ジャーナリスト	学生時代にCLUB GEORDIE 事務局長や第31回 政策・情報 学生交流会 総代表など、代表職を経験させていただきました。 その後、2年間の休学で50カ国480日の世界一周に出て、その中でフォト・ジャーナリストを志し、現在も取材地のアフリカ各国へ足繁く通っております。	やりたいことで生計を立てることはとても大変ですが、少数派かつ全責任が自身にかかるからこそ、一日いちにちが全力勝負です。最近、よく同期や後輩から「仕事を辞めたい」「やりたいことができない」という相談を受ける中で、就職活動という枠に囚われず、人生をかけて生命を燃やせるような生き方をするための覚悟とそのための努力を惜しまないことが生きる糧だと昨年を駆け抜けた感想です。まだ駆け出しの若輩者ですが、今年は撮影依頼を頂き、経費もいただける海外撮影の機会もいただきました。他業種のことや社会人として～というテーマでは正直話せませんが、本気でやりたいことを実現するためにフリーランスでやる意義だけは話せます。

会場 アクティブラーニングゾーン(1F、オレンジゾーン)

ブース名 12:サークル活動・就活に役立つマーケティング			
24	■■■■■ 1999年卒 田島幹雄ゼミ	・1999年総政卒業後、2001年神戸大学大学院修了(経済学修士)。 ・2001年 ■■■■■電線(現■■■■■金属)に入社。海外部門で事業企画と海外営業を各3年経験。海外営業では、3年がかりで、売上4倍、赤字事業を黒字転換に成功。 ・2007年 ■■■■■へ中途入社。現在、半導体製造装置メーカーにて新製品開発の企画担当。	現在、私は半導体製造メーカーで、intelやSAMSUNG等の大手半導体デバイスメーカーへのマーケティングを担当しています。今回、私の実務経験をもとに BtoBマーケティングについてご紹介します。マーケティングやB to Bのビジネスについて知っていただき、サークル活動や就活に役立つ考え方やヒントをつかんでいただければと思います。
	■■■■■(株) マーケティング		

ブース名		13:採用担当が見てるトコ	
25	■■■■■ 1999年卒 福田ゼミ (株)■■■■■放送 人事	アルバイト以外はほとんど三田キャンパスで過ごしていました。語学とプログラミングという実学の習得とともに、哲学や生態学など幅広く学べたことが社会にでて非常に役立ちました。3年次には交換留学も経験させていただきました。専門は、未来を予想することに興味をいだき、福田ゼミでGTAPという応用一般均衡モデルについて学びました。やりたいことが何でもあった。私にとって総合政策はそういう場所でした。	あなたの「思い」をたくさんの人に伝えるのが放送局で働くということです。「こんなことを伝えたいけど放送局でできますか?」という人から「伝えたいことがわからないけどなんか興味ある」という人まで、どんな方でもウェルカムです。もちろんすぐ大変だけど、こんなにやりがいのある仕事はないと思っています。ぜひお話をさせてください。
26	■■■■■ 2004年卒 久野ゼミ (株)■■■■■ 経営	学生時代は久野ゼミで、中小企業のISO14001の取組など環境経営を勉強していました。卒業後、父が経営する会社に入社、2008年27歳で父と社長を交代し、現在代表として8年目を迎えています。会社は50年以上の歴史がある工業用ブラシメーカーです。新規事業として一般消費者の方を対象とした、芸術や認知機能改善(認知症予防)を目的としたブラシアート事業を立ち上げ活動しています。	中小企業の経営者として、どのような想いで採用を行っているか、どのような点を見ているかをお話できればと思います。親や親戚が会社を経営しているが、将来どうしようか悩んでいるという方の相談にものってあげれます。
27	■■■■■ 2004年卒 Greeneゼミ 有限責任監査 法人■■■■■ 人事	<採用担当者の目線、企業の目線、学生の皆さんに伝えたいこと> 学生時代は、海外留学、海外放浪の旅、SCS、卒パ委員会、サークルはGEORDIE等で色々活動しました。そしてゼミはGreeneゼミにて、グループワークで必死に議論し合っていました。 新卒で入ったのは■■■■■というITの会社で、セールスと、人事(主に採用)及び事業戦略の仕事約5年し、現職の■■■■■ではこれまで約6年、採用を中心とした人事の仕事に携わっています。 社会人として「人」を見る仕事に長く携わっており、経験値、感じる事がたくさんあります。学生の皆さんに伝えておきたいことも聞きたいこともたくさんあるので、大いに議論しましょう。	(1)聞きたいことがたくさんある人、そして意見がある人、ウェルカムです (2)企業が、採用というスタンスで学生をどう見ているのか、等 (3)つまらない学生にならないよう、“必死”に何かに取り組むことです(面接の時によく見る、死んだ目の学生にならないように)。

ブース名		14:広告業界でのキャリアパス	
28	■■■■■ 2004年 グリーンゼミ ■■■■■ 営業	大学時代はGreeneゼミで毎週1kg分の洋書のプレゼンをさせられて念願の二重まぶたを手に入れました。その後、SCS主催学内イベントの広報も担当し、熱いやつらをコミュニケーションの視点から側方支援する立ち位置にじっくりくるものを感じて広告代理店に入社。「ココロも満タんに、コスモ石油」みたいな、一行でココロを動かす広告マンになりたい!と思いつつ未だ夢の途上。ではあるものの、自主提案にて「関学」ブランドを全国区でも最強にするために関学教授が月替わり出演するラジオ番組&ポッドキャストを4年半放送したり、テレビの関学1時間特番を作ったり、新聞社×関学のフォーラムを開催したり。また直近は毎晩飲むビールブランドのプロモーションを担当したりと、大好きなブランドの仕事をする、という夢は達成。	①テレビ新聞はもちろん、Facebook/LINE/ニコニコ超会議も全て「売り物」になる広告の仕事 ②「好き」にさせた者勝ち、マスコミュニケーションの楽しさ ③広告代理店に暮らす(夜が遅いので)主な種族の紹介 ④テレビのザッピングも街ブラも合コンも仕事に活きる⇒日常の肯定感

会場 シアター(1F)

ブース名 15:国際協力で生きる		
29	■■■■■ 2001卒 鈴木基史 独立行政法人■■■ ■■■ 事務	卒業後、総政大学院を経て2003年に■■■■■に就職。国総研、地球環境部、ザンビア事務所、■■■■■ ■■■関西を経て現在は再び東京の本部に戻りアフリカ部に勤務。
30	■■■■■ 2012年度卒 鈴木英輔ゼミ (株)■■■■■ 海外インターンの "アジトラ" Founder	在学中1年間休学し、中国へ半年留学・上海外資系5つ星ホテルにて通訳・VIP対応として半年インターンを経験。内定者インターンで海外インターンサービスを開始。また、韓国～中国～東南アジアをバックパッカーとして、3ヶ月で8カ国を周る一人旅【kikutrip】を実施。世界中の人々のモットーを集める。2年目で海外事業部を起ち上げ、海外インターンのサイトをリリース。日本から世界、世界から日本の動きを活性化する為、海外バックパッカー営業で世界中を飛び回っている。
31	■■■■■ 2004年 細見ゼミ ■■■■■(株) 開発コンサルタント	私は総政を卒業してから、UNHCRでインターンをし、アメリカの大学院で勉強しながら、黒人街の小学校、難民支援NGOで働きました。その後日本で、組織コンサル系の企業で働き、転職して開発コンサルタントになり、今はフィリピンの保健医療の仕事やカンボジアで支援ニーズの調査の仕事をしています。
		(1) こういう人に来てもらいたい: 情熱を持ってWhatやHowを自分で探求できる人に (2) こんな話を伝えたい: 国際協力という仕事への様々な関わり方について、なんでもお話しします。 (3) 現役学生が今やるべきこと: 自ら選んだ分野の勉強をしっかりと。
		(1) こういう人に来てもらいたい 【キーワード】休学・海外インターン・海外留学・海外就職・バックパッカー・突き抜けた経験 (2) こんな話を伝えたい(失敗談&成功談) ・ 海外で成果を出す為に知っておくべき5つのこと ・ 人生は有限であり無限だということ・世界各国で活躍する同世代の仲間たちについて (3) 現役学生が今やるべきこと ・ 常識に囚われない選択をすること・自分が何をすべきかを見出すこと・アウェイな環境に身を置くこと
		「国際機関、JICA、開発コンサルタント、NGO・・・働き方はどう違うんだろう?」「国際協力の仕事をしたい!でも自分にはまだいろいろ足りない...これからどうして過ごしたらいいのだろう?」そんな国際協力に関心のある方、ぜひブースに来てください。この仕事の楽しいこと、大変なこと、学生のうちにやってよかったことなどざっくばらんにお話できればと思います。発展途上国に貢献したい、その想いにふたをせず、突破口を考えながら、一緒に「Think globally」と「Act locally」を実践しましょう!

会場 シアター(1F)

ブース名 16:「好き」を仕事にする		
32	■■■■■ 2003年度 ROSSゼミ (株)■■■■■ イージス・ネットワーク事業局 事業戦略プランナー	総政時代は大学祭実行委員会に所属して365日中333日くらい学祭のことやっていた。内定ゼロだったため、名古屋大学大学院の国際開発研究科に進学。必死に勉強する予定だったが2年のうちの半年をJICAでインターン生として過ごし、最終的に国際協力とは無縁の広告業界へ就職。そして、ひょんなことからコピーライターになり、ひょんなことからカンヌ広告賞なんかもらい、ひょんなことから会社のお金でMBA留学をすることになり、帰国してからは■■■■■のグローバル化を担う部署で働いております。噂がひとり歩きしがちな会社ですが、半分は本当で、残りの半分は誇張された本当です。ということで、電通の実体を自分が知っている範囲で話させて頂きます。社会人留学に興味がある方の質問にも少しは答えられると思います
		(1) こういう人に来てもらいたい 興味を持って頂けた方なら全員に来て頂きたいです。 (2) こんな話を伝えたい 聞かれたことには何でも正直に答えます。約束します。 (3) 現役学生が今やるべきこと たくさん大人の会って、こういう大人になりたいという人、こういう大人にはなりたくないという人、を自分なりに定めておくこと、じゃないでしょうか。

会場 シアター(1F)

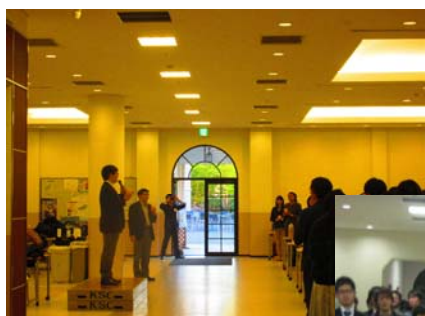
ブース名 17:大工と庭師～総政的建築デザイン		
33	■■■■■ 2000年 グリーンゼミ 庭師■■■■■ 造園	2000年卒業後(株)■■■■■入社。 2006年に英国DevonshirciderHouseにて修業。 帰国後王立植物園のダウニングプロジェクトに参加。 2010年庭師■■■■■設立
34	■■■■■ 1999中退 ■■■■■建築 自営業	淡路島で大工として修行し、大学時代過ごした三田に戻り、独立しました。 自分で設計した建物を施工する仕事をしています。
		拠を積み重ねて、現在から未来へと想像力でイメージを作る。庭師の仕事は庭づくりにとどまりません。庭の中にある建物や施主の生活を含め、空間全体をまとめあげるのが庭師の仕事。常に、全体を俯瞰し、方向性を確認し、個々の調和を調整し続けることこそ、その本質だと思います。その断片をお伝えできれば、と思います。
		設計をしている時期と、現場に出ている時期と、カラーの全く異なる仕事内容が、長いスパンで訪れるのが魅力です。大学は中退しましたが、「美しい景観は人を幸せにする」という信念は、学生時代の体験によるものです。

Research Fair 2015 presents

授賞式・懇親会

発表形式ごとに最優秀賞受賞者の
発表・授賞のほか、発表者・参加
者・同窓会の先輩が楽しく語る場
です

日時：11月21日(土) 16時より
第三厚生棟にて



卒業記念パーティー実行委員 募集中！！

4年間、三田で過ごしたのに、
卒業式は上ヶ原！

そんなの寂しくありませんか。
その寂しさを解消するのが・・・



阪急宝塚ホテルで卒業式後行われる
総合政策学部による総合政策学部だけの卒業記念パーティー！！

毎年、卒業生の6割以上の方にご参加頂き、
今年で18年目になります。

卒業記念パーティーを一緒に創りあげていきませんか。
パーティーの司会・進行、会場の手続き、
パーティー中のゲーム企画など、
全て自分たちで行います。

自分たちで企画するからこそ感動！
自分たちで企画するからこそやりがい！

そんな「感動」と「やりがい」
を分かち合えるサークルです。○○

メンバー同士も仲が良く
楽しく、頑張っています。



活動は主に春期休暇中となります！
イベントの企画に興味のある方、少しでも気になる方
質問があれば下記連絡先までお願い致します。

金山考則（総政・3）fbx12529@kwansei.ac.jp

☆**本年度も、3月18日（火）の上ヶ原での卒業式後、総合政策学部卒業記念パーティーが計画されています。卒業予定者の方は、是非、ご参加下さい。**

2015年11月11日（水）発行
関西学院大学総合政策学部
リサーチ・フェア実行委員会